

台湾新聞

TAIWAN NEWS ◆ 2011年10月号 月刊 東京発行 NO.156

私たちの医療は世界最高水準。
どこよりも高い技術力を提供します。

目元のスペシャリストだからできる安心の施術。

美容外科/形成外科/美容皮膚科/メディカルエステ

慶友形成クリニック

詳しくは本紙広告をご覧ください。

発行先:(有)台湾新聞社 〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-31-5 TEL:03-3987-6379 FAX:03-3590-5798 http://www.taiwannews.jp e-mail:info@taiwannews.jp
 ◎郵便振替:00140-4-594168 ◎みずほ銀行 池袋西口支店 普通1093569 口座名:有限会社台湾新聞社 定価¥300円(税込) 定期購読(12回) ¥3,000円(税込)

日台投資協定が締結 企業投資に拍車

9月22日、日台投資協定が締結された。この協定は日台双方でお互いの企業の投資を促すもの。ゆくゆくは経済連携の協定に発展させる狙いを持つ。現在、日台間は正式な外交関係がなく、今回の投資協定の締結には外務省ではなく、日本の交流協会と台湾の亜東関係協会が窓口機関となっている。なお、今回、交流協会の大橋光夫会長が「日台オープンスカイ協定」の締結のため、就任後初めて訪台する際に同時に調印式を行う予定だったが、日台投資協定が優先され、「日台オープンスカイ協定」は調印見送りとなった。



亜東関係協会の彭榮次会長(左)と交流協会の大橋光夫会長(右)が「投資に関する取り決め」に調印した。(中央社提供)

◆協定の概要は以下:
 1. 「国賓ホテル」にて署名。その後立法院に送り審査を経て年末にはスタートする予定。
 2. 本協定は、台湾初の主要貿易国との間で交わされる全面投資協定となる。内容は「相互投資の促進」、「投資財産の保護」、など。投資の自由化、経済発展の促進が目的。

◆協定の主な内容:
 一 日本・台湾間の業務での往来にあたってはこれを優先する
 一 日本・台湾間では海外赴任者は優先的に入国、就職ができる
 一 日本企業の台湾への投資、台湾での市場促進

◆協定締結による効果
 一 日本・台湾間で現在制限されている事業進出についての法的問題が将来解消さ

れる見込みができた
 一 日本・台湾間で企業を設立した場合、その就業にあたり役員や従業員は就労ビザ取得の必要がなくなる
 一 エルピーダメモリや吉野家等の日本企業を台湾に呼び込み、投資・上場を促進させることができる

今回の協定はトラブル発生時の相互の投資家保護、相互の投資促進、投資の自由化を目指すものとのこと。「内国民待遇」規定がその中心となる協定だが、台湾に進出した日本企業が台湾企業と同様の扱いとなり、外資としての規制を受けないことを規定している。日本での台湾企業も同じ扱いとなる。この協定は早ければ年内に発効する。

2010年の台湾の政府の統計によれば、台湾から見て日本は最大の輸入国(519億ドル)であり、かつ最大の直接投資国(4億ドル)でもある。現在の日台貿易においては、日本企業から「素材」を輸入し、台湾企業がこれを加工、その多くは大陸中国の市場に流れる、という図式ができていた。今回の協定により、素材・原料やアセンブリーの生産拠点をどこに置かかという時、双方の企業の自由度がいくさ増す。そのため、台北市日本工商会などが早期締結を求めている。

この協定で、経済的には日本と台湾が同じ生産拠点を共有できることとなり、大陸中国をはじめとした「成長著しいアジア市場」へ向かう前進基地として、日台という連携がいつその存在感を世界に向かって示すことになる。また、この協定は、日本が2010年のGDP成長率10%超を達成した台湾経済と一体化することにより、背後に巨大な消費地である大陸中国市場を抱えた台湾を通して、低迷を余儀なくされている日本経済の再生にも大きな影響を与えるものと期待されている。

これまで数々の、そして数多く最大の東日本大震災への復興支援を行ってきた台湾だが、今回の協定が日本への最大の「復興支援」なのかも知れない、と関係者の間では期待が高まっている。

なお、台湾内では「日本」「経済」というキーワードを含むこの協定締結は、来年の台湾での総統選挙へも大きな影響を与えたと見られている。

TOPIC

日本語版	
●日本の中小企業は「台湾」で元気になる	2面
●僕らは台湾への気持ちを泳いで届けた	4面
中国語版	
●電音三太子趕走颱風	2面
●高比壽台灣祭吸引人潮	
●經濟部次長黃重球談日台合作	5面

100 中華民國 創始一百

雙十節

慶祝中華民國一〇〇年雙十國慶

台湾物産館

台湾飲茶シリーズ

台湾物産館 笹塚店 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 2-14-15 ヴェルト笹塚ツインビル1F TEL&FAX: 03-5304-7801
 台湾物産館 お台場店 〒135-0091 東京都港区台場 2-2-1 ザ・タワーズ台場 アネックスモール 1F TEL: 03-3527-8861 FAX: 03-3527-8862
 台湾物産館本部 (池袋青果株式会社) 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-15-7 池袋ビル 2F TEL:03-3988-3321 FAX:03-3985-8173
 URL: http://www.taiwan-bussankan.com/index.html Yahoo! 3ya7 URL: http://store.yahoo.co.jp/taiwanbussankan

宅配利用で遠くからでも利用OK

パソコン処分したいんだけど・・・どうすればいいの？

【依頼者にお得情報】
 アスリートPC
 ノートPC (液晶画面不可)
 液晶モニター (液晶画面不可)

↓
 QUORC 図書カード
 どちらかプレゼント
 (事前のご連絡をお願いします)

【その他高価買取します】
 非鉄・スクラップ・廃プラ
 エアコン・銅線・給湯器、他

なんでもご相談下さい

http://www.shinrikogyo.co.jp 信利工業株式会社 (日本関西台商協会 会長: 池平美香) 〒593-8312 大阪府堺市西区草部 2009 番地 tel 072-260-3688 fax072-260-3677

チャイナエアライン スカイチーム 正式加盟

CHINA AIRLINES

たいわん れっつごい

チャイナエアラインは9月28日にスカイチームに正式加盟いたしました。

世界171カ国920都市へのフライトネットワーク、415のVIPラウンジ、相互のマイレージ特典、1度のチェックインで最終目的地までお手続きが可能なワンタイム・チェックインなど、豊富なサービスを通じて、便利で快適なサービスをご提供いたします。

www.china-airlines.co.jp

エバー航空「20年分のありがとうキャンペーン」実施中

WEB購入で15,000マイルプレゼント中! 成田-台北 25,000円~

EVAAIR

ますます便利に! お気軽に各地へ!

●オンラインチェックイン 日本/札幌・仙台・東京(成田・羽田) 名古屋・小松・大阪・福岡発 一泊/パリ・北米・バンコク・スラバヤ行・グアム・マカオ

●機内食 事前指定

●事前座席指定

●免税品 事前注文

●ご予約・お問い合わせ
 札幌 0123-452511 仙台 022-362-0411
 東京 03-6799-2811 名古屋 052-686-6011
 小松 0761-82-6011 大阪 06-6377-3011
 福岡 092-415-5811

※営業時間 9:30~18:00(12:00~13:00は1年中休業)

www.evaair.com

双十国慶節祝辞

台北駐日経済文化代表処 代表 馮寄台



今年、近代中国の革命家、孫文が1911年の辛亥革命により清王朝を打倒し、アジアで初めての共和国である中華民国を建国して100周年にあたります。

孫文の一生は、日本と深い関わりがあります。日本に前後9年あまり滞在し、日本の明治維新の思想的影響を強く受けました。日本が明治維新で近代国家として発展したことによって、西洋列強による侵略、植民地支配を回避できたとの認識に至り、中国も革命によって腐敗した清王朝を倒してこそ、近代化された新しい中国を建設できると考えました。

孫文が建国した中華民国は、艱難辛苦の道のりを歩んできました。建国の初期は軍閥が割拠し、続いて日本に侵略され、中日戦争後は国民党政府と共産党との内戦が始まり、

人々は塗炭の苦しみに喘ぎました。1949年、孫文の後継者となった蒋介石総統は共産党との戦いに敗れた後、台湾に撤退し、存亡の危機に直面しました。一方、毛沢東は北京で中華人民共和国を成立させ、武力で台湾を攻め落とす準備を全力で進めました。

台湾の民主化と兩岸交流

この60年あまり、中国共産党政権による強大な軍事、政治、外交上の打撃を受けながらも、台湾は消滅しなかったばかりか、逆に自由化、民主化の政策が功を奏し、ますます成長と発展を続けています。

馬英九総統の就任後は、台湾人の中国大陸における権益を守るため、「統一せず、独立せず、武力行使せず」の原則の下で、兩岸協議をはじめ、交流のルールの制定を求めてきました。これによって双方はこれまで「経済協力枠組み協定(ECFA)」を含む17項目の経済・貿易等の協定に調印しました。

台湾は兩岸交流を進める上で、台湾の核心的価値である「自由、民主、法治」を一刻も

忘れたことはありません。「天安門事件」から今年で22年目になりますが、今年もこの事件について、馬総統は大陸当局へ人権重視を呼びかけ、北京政府に異議を唱えて拘束されたノーベル平和賞受賞者である劉曉波氏や芸術家の艾未未氏らの速やかな釈放を求めました。

日本は一番親密な国

私たちにあって、米国は台湾の安全を保障している一番重要な国です。一方、日本は台湾人にとって、最も親しみを感じ、一番親密な国であります。私たちは米国と日本の支持を得ながら兩岸関係を改善し、兩岸の安定を願っており、これはアジアの国々にとっても望ましいことであると思います。

馬英九総統が就任してから3年の間に、台湾と日本の交流にも大きな前進がありました。北海道に当代表処の札幌分処が開設され、東京羽田空港と台北松山空港を結ぶ直行便が就航し、台日ワーキングホリデー・ビザの発給制度もスタートしました。そのほか、東京に「台北文化センター」が開設され、台

湾の故宮博物院の文物を日本で展示する際に必要な法律も日本の国会を通過しました。来年7月には、かねてから台湾が強く望んでいた、在日台湾人の「外国人在留カード」の国籍欄が「中国」から「台湾」に変更されます。新たな知日派を育成するため、台湾の4つの国立大学に「日本研究センター」が開設されました。このように、馬英九総統は、台日間の特別パートナー関係を極めて重視しており、両国の全面的な協力関係の促進に意欲的に取り組んでいます。

過去1年間、台日間の貿易額は過去最高の約700億米ドルに達し、前年に比べて約37.9%も増加しました。いま日本は台湾の第2の貿易パートナーとなり、台湾は日本の第4の貿易相手国です。また、日本の国別貿易黒字については、台湾がアメリカの510億米ドルに続いて、339億米ドルで、2番目になっています。

昨年日本を訪れた台湾人観光客は約138万人になり、前年に比べて24%も増えました。一方、日本から台湾への観光客は約108万人で、これも前年に比べて、約8%増えています。

台湾の民間から自発的に震災支援

この度、東日本大震災で、日本は未曾有の被害を蒙りました。我々台湾人も日本の痛み

を深く理解し、日本の悲しみを身にしみて感じております。1999年の台湾中部大地震、2009年の台湾南部大水害の際、被害はいずれも甚大でしたが、日本政府及び民間が直ちに救援隊の派遣や物資、義援金の提供など、台湾の復興を応援してくれたことに、我々は深く感謝し、それを今でも忘れてはいません。

今回の東日本大震災でわが国政府がおくった義援金は、全支援額の2%にも満たず、残りの99%近くは台湾の民間が自発的に申し出たものです。この義援金は日本の災害復興には、わずかな額ですが、台湾人の日本に対する深い愛情と関心を表すものです。

大自然の猛威の前に、生活基盤がほとんど、破壊された状況の下でも、日本人は秩序ある行動、無私無私の精神、抑制された報道などにより、全国民が災害救援・復興に取り組んでいます。これを見るにつけ、われわれは改めて日本に敬意を抱き、心から感服しております。

台湾の国民と政府を代表し、被災された犠牲者に心から哀悼の意を表すとともに、一日も早い日本の復興を願っています。

最後に、皆様のご健勝と、ご多幸を祈念し、中華民国と日本国の一層の友好と発展を願い、私の挨拶とさせていただきます。

日台企業間協働の調印式

8月29日、東京の帝国ホテルで開催した台湾投資セミナーには、台湾から約230名の台湾企業・政府関係者(うち、台湾企業関係者が150名)が訪れ、180名以上の日本の企業のトップなどとの会談や商談に臨んだ。同29日、14:30からホテル内で、行政院経済建設委員会(CEPD)と、大和証券キャピタル・マーケットが、日本と台湾に関連する事業機会について、両者で協働するむねの覚書に調印した。

同セミナーはこの調印式を中心に、台湾への投資の成長性の高さ、安全性の高さなどを日本国内の投資家にアピールするもの。

台湾は巨大市場、「成長著しいアジア」の要である大陸中国を背後に抱え、その巨大な成長のパワーとともに、2010年は10%を超えるGDP成長率を得るまでになった。かつての大陸中国といえば、市場ではなく「世界の工場」という位置付けであったが、その「工場」の成長とともに、世界の中で巨大な市場としての地位を持ち始めた。今後は、「台湾—(大陸)中国—日本」というトライアングルが世界経済の要になる可能性が高いだけではなく、このパワーを利用して、世界的な潮流である「広域経済圏」としての「アジア経済圏」を作り、その要となるのが「台湾」となる、というのが、台湾の政府が主張する将来のアジア



調印式には、CEPDの主任委員の劉憶如氏、大和証券グループ本社社長の日比野隆司氏が出席。さらに、台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表がこれを見守った。



兩岸交流基金会の理事長・江丙坤氏

台湾出身者の戸籍改正シンポジウム開催



「台湾出身者の戸籍を中国から台湾に改正しよう」というシンポジウムが、9月11日、東京文京区で行われ、50人近くの出席があった。講演会は登壇者が多いため、「リレートーク」というかたちで行われた。

最初は、日本李登輝友会の事務局長、柚原正敬氏が挨拶。これまでの「台湾正名運動」の経過、そして、日本李登輝友会のこと、また、それらの運動の中でいかにして「台湾出

身者の戸籍問題」を扱うようになったか、などのことが語られた。その後、参議院議員の大江康弘氏からの祝電が披露された。祝電の披露が終わると、台湾出身者の戸籍問題を国会で扱った中津川博昭議員をはじめとして、各々15分ほどのリレートークが始まった。

◆衆議院議員中津川博昭氏
中津川氏は、民主党の内部の問題など、多

くのしがらみの中で戸籍問題も扱っていることや、その周辺のいくつかの問題が語られた。
◆拓殖大学客員教授黄文雄氏
まず、多くの台湾を支援する日本の国会議員を落選させないように、ということが語られた。その後、日本の政府と台湾の政府の特別な関係について、自分の体験から語った。また、古くから「台湾」という名前が特に大陸中国の政権から嫌われてきた過去などが語られた。
◆前台北市長梅原克彦氏
梅原氏は、経産省出身のことだが、そのときのAPECでの経験談を語り、省内でも「台湾には行きにくい雰囲気があった」とことを語った。また、米国に駐在していた当時の自身の経験として、ワシントンでの台湾代表部からの「雙十節」へ招待で行こうとしたとき、外務省の駐在員からストップがかかったことなどもあった、というエピソードを語った。
◆メルマガ「台湾の声」編集長 林建良氏
林氏は台湾人として日本で活動しているが、台湾人の日本人に対する思いは、戦前の日本の統治下から続いている、と言われているが、現在の戦後生まれの反日教育を受けてきた若い人間でもなぜ親日になるのか、という

文清氏が登壇した。最後にECFAの解説には、兩岸交流基金会の理事長である江丙坤氏が登壇し、ECFAの現状と日本、台湾、米国、大陸中国の関係の現状を語った。

前記の調印式はじめ、セミナーの間も別室で多くの企業間の協働に関する調印式が行われ、セミナーは大変な盛況だった。

特にデジタルコンテンツ産業では、電子出版などを請け負うデジタルコンテンツ産業のI-Mel: 義美聯電(股)公司、日本でも公開が噂される台湾の伝統的な人形劇「布袋戲」の霹靂國際多媒体股份有限公司が目立ち、企業ブースにも多くの日本企業が訪れていた。

セミナーには、台湾の各産業界から、それぞれを代表する企業が参加。映画産業、デジタルコンテンツ、デジタルゲーム、文化創造、ソーラーシステム、電気自動車の各産業界を皮切りに、バイオテクノロジー、農業バイオ、健康医療、海洋バイオ、クラウドコンピューティング、精密機械、国際物流、都市再開発特区の紹介、台湾証券取引所、などがプレゼンを行った。台湾の映画産業の解説には、前・台北駐日経済文化代表処の新聞組長で、現在は行政院新聞局の電影事業處處長の、朱

日本の中小企業は「台湾」で元気になる



主に日本の中小企業を相手とした、「台湾を活用した中国国内販売戦略」と題したセミナーが、9月7日、横浜の横浜情報文化センターで開催された。約240席ある会場のホールはセミナーの聴講者で満員となり、数人の立ち見もいたほどだった。セミナーは横浜企業経営支援財団が主催、台北駐日経済文化代表処と台湾貿易センター(TAITRA)の後援で行われた。なお、同財団は台湾のほか、香港など多くの海外の地域企業と日本企業との交流を目指したセミナーを多数開催している。

セミナーは台北駐日経済文化代表処の横浜分処長・李明宗氏の挨拶から始まった。李氏は台湾と日本とのあいだには、戦後に正式な国交がなくなってからも、多くの経済交流や文化交流が行われていること、古くからの「親しい者どうし」であることが語られ、今後はECFAなどの大陸中国と台湾のあいだの経済枠組み協定などの発効を機に、日本の中小企業もまた、台湾を通しての大陸ビジネスを促進していくことが望ましい、ということが語られた。

次に立ったのは、台北駐日経済文化代表処の経済部・次長である周立氏。周氏はGDP成長率10%超(2010年)という台湾経済の最近の発展の源が、「成長著し

いアジア」の成長の要である大陸経済との密接な交流にあることや、その要となる「ECFA(Economic Cooperation Framework Agreement)」の概要と現在の進展について語った。

次に、みずほ総合研究所の調査本部アジア調査調査部・中国室長の伊藤信博氏が立ち、「台湾活用型中国ビジネス」という演題で講演。氏の独自の調査資料は詳細な数字が明らかにされ、台湾が日本にとっていかに重要な位置にあるか、ということがよくわかる内容だった。

最後に、「Taipei Computer Association(TCA)東京事務所」の駐日代表・吉村章氏が立ち、「台湾活用型企業の進出事例」にみる中国・台湾ビジネスの注意点」という題材で、これまでの日本・台湾・大陸中国のあいだの具体的なビジネスの発展事例や、そこから得られるさまざまな日本企業にとっての教訓などを語った。

最後の質問の時間では、「中国企業に騙されたことがある」という方が「悪い人とそうでない人をどう見分けるか?」など、現場での経験を踏まえた切実な質問が目まぐるしく寄せられた。

また、セミナーの最後に、主催者から、10月7日に、台湾の政府と現在交渉中であるが、台湾から数十の中小企業が来日し、日本企業とのアライアンスを模索する会を行うことが語られた。現時点では、日取り以外の詳細は未定とのこと。

「台湾人の親日の原点」は、日本人の誠実さに対する「尊敬」であろう、と語った。林氏の問いは会場を埋める日本人のすべてに鋭く突き刺さった。

◆公認会計士・猪鼻嘉行氏
猪鼻氏は台湾人を妻に持つ「当事者」として登壇に立った。猪鼻氏は個人の体験として、「亡くなった方をどう見るか」などの人間の核心ともいえるメンタリティについて、台湾人と日本人は非常に似ている、ということも語った。また、現在国会で可決されようとしている「人権侵害救済法」は、この「台湾人戸籍問題」に大きな問題を投げかけるのではないかと語った。

◆青森日台交流の会事務局長・町田淑貴さん
もう一人の戸籍問題の「当事者」である町田さん。98年に結婚して青森に住んだ。そのときは「中国」という戸籍の中の表現を見て、役所の窓口でも多くのトラブルがあったという。その後、ネットで色々調べて、この問題が日本で大きな問題となっていたことを知ったとい

う。重い内容を含んではいるが、語り口が大変に楽しく明るい。会場からは笑いも漏れた。運動を楽しくやっている雰囲気がよくわかる。聞いていて温かな気持ちになる話だった。

◆東京都議会議員・小磯明氏
最後に登壇した小磯氏は、都議会議員の立場で「台湾正名運動」に関わったとのこと。この問題について都の行政部とかなりやりあったとのことだが、都庁の中でもかなりの成果があがりつつあり、平成20年から都の市町村への通達で「台湾」表記ができるようになったとのこと。

小磯氏の話のあと、「台湾出身者の戸籍を中国から台湾に改正しよう!」の参加者一同、という署名の「決議文」が示され、朗読された。

最後に、黄文雄氏より閉会の言葉が語られ、日本の行政の台湾人に対する侮辱ともとれる「戸籍問題」「台湾表記問題」の解決を進めていきたい、ということが語られた。

辛亥革命100周年

TOKiS 東京電気

歡迎光臨



HDR-CX560



HDR-CX160



DSC-TX55 Cybershot



NEX-5N



W Series Walkman



Walkman NWZ-E463



Cybershot DSC-TX10

TOKiS東京電気秋葉原本店

がんばろう!日本!

TOKiS秋葉原駅店

東京都千代田区外神田1-11-6
☎ 03-3258-0032



Panasonic ideas for life

毎日が素敵に変わる
小さな小さな一眼
LUMIX GF3



photo touch

感じるままに、撮れて楽しむ



movie

動きもその深遠なレイに映す



photo artistic

いつもと違う表情を楽しむ



after shooting

撮ったあとも楽しむ



写真もムービーもタッチで撮れる。
エレガントなスリムデザイン



Retouch

チキッと顔や目をきれいに「ヌメ」させたい
「メイクアップ」したい



Touch

3.5型タッチパネル画面と
新アイコン表示で使いやすい



Photo & Movie

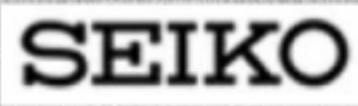
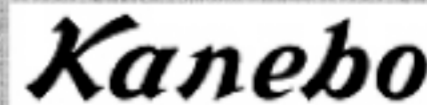
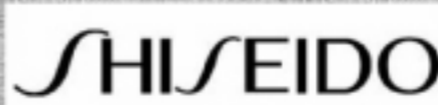
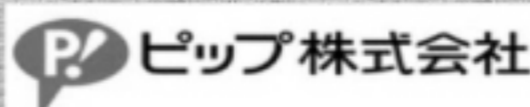
写真もムービーも
タッチでかんたん・楽しい



東京都千代田区外神田3-7-7

☎ 03-3257-0032

契約代理店



大阪市浪速区日本橋3-6-1

☎ 06-6643-5516

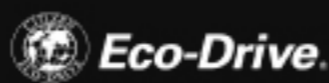


CITIZEN.

強い意志だけが、革新となる。



世界40億人の消費を環境に配慮。
エコドライブ電流時計
シヤモン アマツタ ダイアログフライト
E57040-01P 品名 F112.020 (標準価格 ¥138,000)



http://citizen.jp

TOKiS東京電気大阪店

南相馬にボランティアに行った台湾人の張さん

ぼくらは台湾への気持ちを泳いで届けた! 一日台黒潮泳断チャレンジ2011成功!

今、日本人は「南相馬」という地名を聞いて、それがどこにあるのか、ほとんどの人がわかるだろう。東日本大震災で津波の被害を受けほとんど全滅した、というだけではなく、その津波で事故を起こした福島第一原発の20km圏外ではあるものの、大量の放射線の被害を受けたところだ。

15日に福島第一原発の爆発事故があったが、その3日後の18日に自らボランティア登録し、3月24日に相馬に行くことを決め相馬でのボランティア登録をして、27日には相馬のその地でボランティアをはじめた外国人がいる。東京で会社の社長をしている張碧華さんだ。



当時はその地に行くためのガソリン、自分の食べる食料、水、着替えなども自分で持って行き、寝泊まりするところも自前で用意しなければならない、というボランティアをするにも大変な状況だったが、張さんは、これらのものを自分の妻にも手伝ってもらって用意した。これまで自分がお世話になった日本という国に何かしなければいけない、いてもたってもいられない。そんな気持ちだったという。まるで戦争で敵地に乗り込むような高ぶった気持ちで、張さんは東北に向かって車を走らせたという。現地に行ったらなにかがあるだろう?もちろん壊れた家や瓦礫があるだろう。もしかすると死体運びなどもあるかもしれない。などなど、何を頼まれても一生懸命にやる、と心に決めて、夢中で一人クルマを走らせたという。

たどり着いた相馬の駅にはだれもいなかった。近くのコンビニは開いていたが、あるのは、おにぎり、バナナ、パンだけだ。それでも開いているお店が不思議に思えた。ボランティアセンターに行くと、登録をして、指示されたいろいろな仕事をやった。南相馬には日本人のボラン

ティアも少ないだけではなく、外国人のボランティアもほとんどいなかった。もちろん、中国語が話せるのは張さんだけだった。

張さんは50歳代後半。いくら頑丈な張さんでも、体には気をつけて作業をしなければならない。もしボランティア先で倒れでもしたら、現地の人たちの迷惑になる。それではボランティアに行った意味がない。休める時はしっかり休みながら、張さんは一生懸命がんばった。物資運びはもちろんなこと、あとで放射性物質の吹き溜まり、と話題になったドブざらいもした。時間に余裕ができると、避難所の人たちのために、手元にある材料で中華スープなどを作った。避難所の生活ではどうしても温かな食べ物がないので、避難所の被災者の人たちには、とても喜ばれたという。

ある日、張さんは被災者のおそらく60歳前後であろうと思われるおばあちゃんに聞かれた。「あんた、どこから来なすった?」「東京からです」「いや、そうじゃなくて、どこの人だ?」「私は日本に長い華僑です」

たしかに、腕章にはボランティアの名前が書いてあるから、日本人ではないことがすぐにわかったのだろう。おばあちゃんはひと呼吸置いて、言った。「そうですか...本当に、ありがとう」

おばあちゃんはそう言って去っていった。ボランティアをして、初めての心の底からの「ありがとう」を聞いた。張さんにとって、その「ありがとう」は、いままで聞いたことのないものだった。それは一生の宝物になった、と張さんは言う。



ところで、張さんご自身は地震の当日、都心の自分の会社で仕事をしていたという。地震が起きて、電車もな



13日には代表隊で記者会見が行われた。



6人の泳者は7時5分に、黒潮島を出発した。

2011年9月17日から19日にかけて行われた「日台黒潮泳断チャレンジ2011」。台湾への感謝の気持ちを日本人泳者6人が泳いで台湾に届ける、というこのチャレンジは、成功のうちに終わった。

出発に先立ち、今回のプロジェクトの実行委員長・松本盛彦氏が挨拶。台風は心配ではあるものの、決行すること、また、出発直前に東北の被災した東北3県の知事から台湾へのメッセージのほか、石垣島の中山義隆市

長のメッセージも届いて、これも台湾へ届けることなどが語られた。続いて、与那国町長の外間守吉氏、そして台北駐日経済文化代表処・那覇弁事処の粘信士処長が挨拶。粘処長は、中華民国建国100年に当たるこのイベントをきっかけに多くの人に台湾を深く知ってもらいたいこと、そして、台湾と日本のつながりがとても深いことをしっかりとここに刻んで、このプロジェクトの成功を祈る、と語った。一行は午前7時5分だった。

19日午前9時50分、一行は目的地の蘇澳より北にある豆腐岬に到着。現地で宜蘭県の歓迎式が開かれた。また、午後6時半から台北市内で交流協会による歓迎レセプションが開催された。歓迎レセプションには、多くの政府交換をはじめとするゲストが泳断到着を祝った。今回は泳断のコースが台風の影響でかなり荒れるのではないかと危惧されたが、まるで台風がコースを避けるように本州側に逸れ、泳断は成功した。台北での歓迎レセプション(交流協会主催)では、リーダーの鈴木一也さんが楊進彦・外交部長に、被災地3県の県知事からの感謝状を手渡した。鈴木さんは「先輩が築いた友情を次の世代へ結び付けられたらうれしい」と挨拶。

今回チャレンジに参加した人員は、日本人の6人の泳者で、いずれも団体やインターハイなどで多くの受賞歴を持つ強者だ。全員普段は別の仕事を持つ普通のサラリーマンなので、台湾に到着した後、セレモニーが終了すると、そのまま日本に戻り、仕事に戻った。

6人の泳者は鈴木一也さん、鈴木敦士さん、石井健太さん、清水雅也さん、山本春基さん、山田浩平さん。なお、山田さんは被災地である南相馬出身。

にもかも止まった。その中で張さんも、張さんの会社の人達も、静かに家路についた。そして、暗くなり始めていた都心の道を歩いているとき、言い知れぬ「なにか」を感じた、という。家路につく人たちは何万人、何十万人。目の前を歩いている。しかし、みな一定の間隔で誰もぶつからず、一切喋らず黙々とただ歩く。あんなに人がいるのに、聞こえるのはただ歩いている人の足音ばかり。まるで日本人は軍隊のようだった。黙々と、ただ黙々と歩く。日本という国のなにか本質的なものを見たような気がする、と張さんは言った。

この8月20日、南相馬のボランティアセンターと避難所は一度クローズする。張さんは南相馬の町から招待を受け、その「閉会式」に出るといふ。被災地での張さんのボランティアの体験は、なによりも張さん自身への大きな形にならない「宝物」を残した。複雑で、それでも感謝に満ちた、その

震災の体験、ボランティアの体験を語る張さんは、自分でもまた一つ、人間として大きくなったことを感じているのではないだろうか。張さんは、その日、あたりいっばいに広がるひまわりの花の中で行われる式典で挨拶した。涙が止まらなかった、という。

誰もが体験できるところにいる「ボランティア」という体験なのかもしれないが、実際にそこに自分で「飛び込む」人はどのくらいいるだろうか? その「なんだかわからないし、不安だけれども、先も見えないけれども、やらなくては」という勇気を、張さんの場合は、日本への感謝の気持ちがくれた。張さんになれる人はどこにでもいるけれど、今の張さんになれたのは、張さんだけだった。



目元と肌で年齢は変わる!! 若返りのスペシャリストだからできる匠の技。

美容皮膚科による肌の若返り

美容、若返りのためにコラーゲンやヒアルロン酸を飲んでいる方。コラーゲンやヒアルロン酸はどれだけ飲んでも肌のコラーゲンやヒアルロン酸に変化することは絶対にありません。なぜなら、お口から摂取したものはすべて胃で消化されアミノ酸などに分解されてしまうからです。残念ながら肌細胞として作り変えることはできません。肌の弾力に必要なコラーゲンやヒアルロン酸というのは真皮層に存在する細胞と呼ばれる細胞だけが作る事ができるんです。極端なことを言えば、この細胞を増やしてしまえばいつまでも肌は若いままの状態です。しかし、残念ながら細胞は加齢が進むにつれ数が減少し、働きも鈍くなってしまいます。

老化した肌生まれの細胞を移植して、ヒアルロン酸とコラーゲンをたっぷり補充した、潤いのある素肌を作り変える最先端の治療です。なんだか怖い! 難しそう! と思われるかもしれませんが、治療は実に単純。まず、耳の裏側やお口の中の皮膚や粘膜を数ミリ採取します。(痛みは一切ありません) そうして培養プラントで細胞増殖だけを数百万倍まで増やします。増えた細胞は生まれの細胞そのものなのです。その若い細胞を注射して肌に戻します。注射した細胞は、真皮中でヒアルロン酸、コラーゲン、エラスチンを増産・再構築しますので肌みるみるうちに若返ります。従来のレーザーやPRP、PPPなどのアンチエイジングと全く効果、原理が違うのが特徴です。



治療前



4年後

細胞移植後4年を経た肌の状態です。この年になると本来は年々たるみが強くなりシワも深くなりますが、細胞移植すると年々肌が若返り、シワが薄くなり、肌全体に潤いがみられるようになります。

細胞補充の料金 目元(下まぶた) ¥420,000~

目元の若返り!!

目力アップで10歳若返って同年代に差をつける!! 眼がたるむとすぐ老け込んだ印象を与えてしまいます。眼をリフトアップして10歳若返ってみませんか。眼の若返りにはたるみを取って引き上げる上眼線切開、眉毛下切開、開きやすさを改善させる眼線下垂などさまざまな治療法があります。ご要望に応じて適切な治療をご提案させていただきます。お気軽にご相談下さい。

眼のリフトアップで改善すること

二重まぶた	目を大きくする	上まぶたのたるみ取り
左右差を整える	上まぶたのくぼみ	瞼(おでこ)のしわ取り
腫れやすい目元を改善	視野の改善	片頭痛、肩こりの改善
目の奥の痛み	疲れ目	など

眼の若返り治療費用

上眼線切開	¥315,000
眉毛下切開	¥315,000
眼線下垂	¥420,000

プチ整形で若返り!!

ヒアルロン酸とボトックスでシワやたるみを取る。年々深くなるシワやたるみ。プチ整形によるスキンケアで老化による肌トラブルを一気に解消しましょう。ヒアルロン酸注射やボトックスはたった数分の治療でシワやたるみが改善します。腫れなどのダウンタイムも一切なく安心して治療を受けていただけます。

プチ整形のできる場所と費用

【ヒアルロン酸】		【ボトックス】	
眉間	¥52,500	おでこ	¥84,000
目尻	¥44,100	眉間	¥21,000
下まぶた	¥52,500	目尻	¥42,000
鼻	¥52,500	鼻	¥21,000
ほうれい線	¥52,500	顎(あご)	¥42,000
口周り	¥52,500	首	¥42,000
顎(あご)	¥77,700		

上野駅で台湾観光をアピール

～台湾観光局が上野と横浜で一般向けイベントを開催～

台湾観光協会が9月28日、東京の上野駅で台湾アピールのためのイベントを開催した。周辺には台湾のさまざまな観光関係者、台湾の観光地を抱える自治体の観光局長なども訪れ、上野駅を利用する人たちに台湾観光をアピールした。

会場では最初に来場者に抽選券が配られ、抽選会が行われた。賞品は台湾との往復航空券や宿泊券など豪華なものだ。そのためか、開会の11時から10分もたたないうちにたくさんの人だかり



台湾観光局長の張麗珍氏(右)と台湾観光協会東京事務所長の黄怡平氏(左)も訪れた

ができた。

お昼になると通る人が増える上野駅の中央改札口近くだが、この時間には台湾の少数民族の舞踊なども披露され、さらに多くの人だかりができた。また、台湾観光局長の張麗珍氏、台湾観光協会東京事務所長の黄



台湾の少数民族の踊りはカラフルで華やか。

怡平氏、台湾観光協会の周慶雄会長、南投県観光処の洪文龍氏、宜蘭県観光局、苗栗県観光局、理政集団の董事長・高健文氏、も訪れ、台湾の観光関係者の重鎮が勢ぞろいした感があつた。

また、ステージでの踊りや抽選会などのアトラクションの他、紙切りでの似顔絵描き、台湾の観光地各所のパンフレットの配布や、ノベルティなどの配布もあり、この場所を一周するだけで台湾の観光の概要がわかる、という大掛かりなイベントとなった。

なお、同イベントは上野駅だけではなく、29日も横浜のクイーンズスクエアで行われた。

近年、日本で東日本大震災をきっかけとし



無料で紙切りで似顔絵を作ってくれるコーナーも



台北の観光局SPINTEC「タキヤンキー」の「T-G」は現在5G1R「新SUI」の「T-G」です。

て台湾に興味を持つ人が増えているが、このイベントは台湾の観光を演出する、新しい試みとして大きな注目を浴びているといえるだろう。

上映会 第3回「正論」シネマサロン 「海角七号 — 君想う、国境の南」上映会のお知らせ

雑誌「正論」は、読者の方との交流の場として映画上映会を開催します。第3回は、六十数年の時空を超えて、台湾の美しい海辺の街と日本をつなぐ切ない恋を描いた「海角七号—君想う、国境の南」です。

東日本大震災への台湾からの義援金は200億円を超え、支援国の中で群を抜く熱い思い、真心を寄せてくれました。改めて台湾の人々の特別な感情に感謝するとともに、日台の歴史の絆を再認識したいと思ひます。台湾映画界最大のヒットとなった本作を選び、戦後の日本人が失ったもの、今こそ取り戻すべき精神や心のあり方について考えてみませんか。(http://www.kaikaku7.jp/)

■日時 平成23年11月5日(土)
午前11時開場、正午開演(上映時間130分)～午後3時30分(終演)
※映画上映後、ジャーナリストの櫻井よしこ氏と雑誌「正論」編集委員・上島嘉郎によるトークライブを行います。

■場所 よみうりホール 千代田区有楽町1-11-1 読売会館7階
JR山手線・有楽町駅 国際フォーラム口よりすぐ
主催：産経新聞社 雑誌「正論」 / 協賛：積水ハウス株式会社

■入場料 事前予約 1,000円(税込) 当日券 1,500円(税込) ※全席自由

■申し込み 観覧を希望する方は、以下の方法でお申し込みください。

メール：郵便番号、住所、氏名、電話番号・FAX番号、購入する枚数を記入し、seirontaisho@sankel.co.jpまでメールで。
FAX：郵便番号、住所、氏名、電話番号・FAX番号、購入する枚数を記入し、03-3241-4281までファクス。
往復はがき：「シネマサロン入場希望」と書き、郵便番号、住所、氏名(返信用はがきのあて名欄も)と購入する枚数を明記して、〒100-8077(住所不要)産経新聞社正論調査室まで。
予約番号を記して予約券として返送しますので、当日受付にお持ちください。予約券をお持ちの方には1,000円で入場券を販売します。当日券は1,500円ですので、どうぞ事前に予約をお願いします。

問い合わせ：産経新聞社正論調査室
03-3243-8454(平日・午前10時～午後6時)



「静かな隠れ宿」西絆荘 (せいはんそう)

都会から離れた、自然溢れる豊かな温泉地那須。星の数ほどある温泉旅館の中で、最も心とわたり合える場所は間違いなくここ西絆荘でしょう。

最寄駅の黒磯駅から那須湯本行きのバスに乗り換え、窓から見える景色が手打ちうどんのお店や栃木黒毛和牛ステーキの看板から、段々と温泉リゾート地の看板に変わり、視界が緑に満たされた頃、目に映ったのは木々に囲まれ、素朴で暖かい二階建ての旅館。ここが静かな隠れ家 - 西絆荘。

同じ地域にある他の温泉リゾートと違って、西絆荘のロケーションは別荘地に近く、プライバシーを守ることが出来るという良さがある。ホテルでよくあるバイキングの代わりに、食事は日替わりの山珍味メニュー、騒がしいゲームセンターの代わりに、食堂には将

棋盤がある。衛星通信カラオケ機、完全個室全自動麻雀卓などもあるが、全て家庭的で少人数でも団体客でも遊べるものが置いてある。もちろん、24時間入浴できる天然温泉のかけ流し風呂や、予約制の家族風呂も十分に楽しめる。

施設の中だけではなく、扉を開けてベランダへ出ると、眼下には大自然の風景が広がる。夏には萌える緑、都会では滅多に見ることがなくなった蜜、秋には紅葉で真っ赤に染まる森がある。春夏秋冬、季節の移り変わり目を肌で感じ、それを眺める。那須の休日

満喫する西絆荘の四季。一階にあるテラスでは、裏手に流れる溪流のせせらぎを聴きながらバーベキューもでき、その周辺には森林浴散策ができる。西絆荘は自然の中でフルコースの楽しみを提供出来る。

客室は全部で9室で全室和室。オーナーが毎日清潔にしている共用の洗面台。トイレの綺麗さも素晴らしい。

気になる天然かけ流し温泉風呂は那須連峰の主峰、茶臼岳付近の奥の沢噴気泉を源泉とする良質な単純硫黄泉。神経痛、筋肉痛、リウマチ、五十肩、冷え性、疲労回復、打

ち身、切り傷、消化器病、皮膚病、胃腸病、婦人病、動脈硬化、糖尿病、高血圧などに効果があるといわれ、温泉客に非常に評判が高い。湯治・療養にもお薦めの湯だ。

多忙でストレスが溜まりがちな現代人には、東京から二時間弱で体験出来る、リラックスできる雰囲気、西絆荘は最適だ。小さな宿だが、それだけに別荘気分の休日を満喫できる。一度きりの人生の中で、那須の大自然を独り占めし、温泉で身体を休ませる最高のひとときを、西絆荘で過ごしてはいかがだろうか？

爽やかな那須の風と豊かな森の空気を感じながら

温泉かけ流しの宿

西絆荘

せい はん そう

宿泊料金 (一泊二食付き)

通常コース / ¥8,000 (税込)

通常コースは、お気軽にご利用頂ける、西絆荘のスタンダードプランです。

特別コース / ¥15,000 (税込)

特別コースは、夕食に特別料理で那須牛のステーキが追加になるプランです。

※プランの変更は当日でも可能です
※お子様ランチ(幼児用)1人前2,000円で承ります
※別途、入湯税150円頂戴しております
※10月～3月の期間は暖房費としてお一人様別途1000円頂戴しております

※クレジットカードはお取り扱いしておりません
※お敷物類は販売しておりますが、持ち込み自由です
※事前の告知なく料金変更になる場合があります

電車でお越しの場合 ※開業後/バス会社へお問い合わせください。乗車/バス 那須温泉行 / 0287-62-0858(9:00-17:30)

東北新幹線「那須塩原」駅西口下車、東野バス「那須湯本」行、「一軒茶屋」下車、徒歩7分。
東北本線「那須」駅西口下車、東野バス「那須湯本」行、「一軒茶屋」下車、徒歩7分。



●東京から那須方面へ直行/バスもごさいませ。(ご利用は/バス会社へお問い合わせください)
那須塩原リゾートエクスプレス(NRX) 新那須塩原南口(代々木)・王子駅 ↔ 那須(「一軒茶屋」下車)

予約・お問合せは → http://tova108.jp/
J/F / (F) 那須 電話 / (F) 那須センター / 03-3844-1950(10:00-22:00)
東野交通 那須営業所 / 0287-62-0858(9:00-17:30)

車でお越しの場合

東北自動車道那須ICを降り、突き当たりを右折。そのまましばらく直進し、「一軒茶屋交差点」(セブンイレブンが目印)を左折。「東京ドーム山荘」または「石川荘入口」を右折し、西絆荘の看板が見えたら左折。
※カーナビや地図アプリで案内が入ります。看板を見逃さないようご注意ください。



西絆荘 せいはんそう
栃木県那須郡那須町湯本203
Tel.0287-76-8691
www.mmclanning.com/seihensou

客室は全9室、くつろげる和室となっております。



ダイニングに隣接したテラスでは、バーベキューが可能です。※2

天然のかけ流し温泉を贅沢に使用した浴場は、24時間ご利用が可能です。※1

客室のベランダからは、四季折々の自然のパノラマが楽しめます。

全自動麻雀卓(1卓)を無料でお楽しみ頂ける施設としてご利用しております。完全個室です。※4

衛生通信カラオケ機が無料でご利用いただけます。皆様語り合いのうえお楽しみください。※3

※1 かけ流しのため、湯温は日々変化いたします
※2 別途料金、要予約(バーベキュー)
※3 原則として23時に終了をお願いします(カラオケ)
※4 麻雀卓のご利用はスタッフまでお申し付けください(先着順)

お問い合わせ 株式会社エムエムシー企画 担当：北中、西村
Tel.03-5986-1121 Fax.03-3959-4800

シンポジウムで将来の台湾像

産経新聞社主催の「中華民国100周年記念シンポジウム」が、東京・大手町の大手町産経プラザホールで9月3日、開催された。冒頭で挨拶した台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表は、これまでの台湾と日本の深いつながりと近年の台湾と日本との関係を深めるさまざまな政策の実現などについて語り、2008年以前の民進党が政権をとった時代でも、台湾と中国、台湾と日本との貿易や交流が増えてきたことなどを語った。また、東日本大震災での台湾から日本への支援は、88大水害を初めとするこれまでの日本からの多くの自然災害に対する支援を、台湾の人たちが忘れていないことを示している、ということも語った。



最初に挨拶した台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表(左)と、主催者の産経新聞社、代表取締役社長・熊坂隆光氏(右)。

中華民国100周年記念シンポジウム



次に主催者の産経新聞社代表取締役社長・熊坂隆光氏が立った。熊坂氏は冒頭で今回のシンポジウムが700人以上の参加があり、更に席を増やしても追いつかないほど大変に盛況であったことが語られた。熊坂社長は、中華民国建国の父である孫文の「大アジア主義論」について語りその中の「大アジア主義の基礎は、アジア人特有の文化である道徳を中心に置かねばならない」というところを引用し、これを賞賛した。さらに、このシンポジウムがこれからのよりよい日台関係を築く基礎となるように願う、と結んだ。

講演会では、拓殖大学の学長・渡辺利夫氏が「台湾の国際環境と日台関係」という演題で講演した。渡辺氏は冒頭に台湾からの200億円を超える東日本大震災への台湾からの義援金についてその御礼を述べた。なぜ、台湾の人たちは日本への支援を惜しまないのか?渡辺氏はまずそのことを語った。

渡辺氏は戦後、台湾と日本、そして日本と中国の関係について、さまざまな問題は含んでいるものの、台湾は政治的な独立を保っていること、台湾に住む多くの人々は「現状維持」を望んでいること、そして台湾は、中国大陸とは違うしっかりした民主主義を持っていることが語られた。「民主主義」は「台湾人意識」の中心の一つをなすも

のと言え、台湾の人たちは大陸中国の支配下にはいることを望まないであろう、と、渡辺氏は語り、これからの日台関係ではFTA、EPAの締結も必要である、と語った。また、東アジアの安定のために、台湾だけではなく、日本もまた防衛などで積極的な施策を必要とすることなども語られ、講演を終わった。

渡辺氏の講演の後、パネルディスカッションが始まった。テーマは台湾を中心としたアジアの平和について。パネリストは講演者の渡辺利夫氏、東京外国語大学教授で国家基本問題研究所客員研究員の井尻秀憲氏、台湾から、台湾輔仁大学教授の何思慎氏、そして、モデレータに産経新聞社東京本社・東アジア室長の山本秀也氏。

冒頭には、東京外大の井尻教授が、「中台関係は微妙」という渡辺氏の講演内容について語った。また「台湾の帰属先は未定」なので「民族自決」で決めるしかない、ということが多く、かつ最近の世論調査では台湾では「台湾人としてのアイデンティティが非常に高くなった」現状からすれば、台湾は(大陸中国ではなく)台湾であろう、ということが語られた。また、清の時代でも「台湾」といえば、台湾の島そのものよりも「澎湖」あたりのことであったので、

「台湾開発」がそのまま現在の台湾を示すわけではないことに注意が必要だ、とのこと。

次に輔仁大学の何教授が語った。何教授は中華民国の立場としての台湾、日本の立場が違ふことなどを語った。その後、産経の山本氏が現在の台湾の軍事、政治、経済についてのデータを語り、シンポジウムの口火を切った。それに対して経済の専門家である渡辺学長はECFAをめぐる台湾の立場を語り、馬英九政権の台湾の政府の政策について語り「大陸中国の経済が台湾に与える影響の大きさ」について懸念していることなども語られた。現在、台湾経済の対中依存度は40%、さらに台湾人で大陸に常駐するビジネスマンは100万人以上いることについて語り、これが台湾の経済の懸念事項であることを語った。また、日本の立場としても、アジア全体の立場としても、アジアの地域の経済統合に向かって動くべき、ということも語った。井尻氏は、台湾はいつも安全保障の問題を考えつつ、大陸とのあいだでの経済も振興させなければならない立場にある、と語った。

台湾にも大きな影響を与える中国の情勢は、日々変化しており、中国はだんだんと経済と政治が離れる傾向も見られるとのこと(井尻氏)。中国が政治と経済が持続可能なものかどうか?ということが大事であり、「投資主導経済(渡辺氏)」であり、貧富の大きな差を作ってきた中国の経済政策が、これから中国の経済を良くしていくのか、それとも複雑させるのか、ということも台湾の行方も大きく変わるだろう、とのこと。しかしながら、内需拡大経済に移行できない現状では、中国経済はおかしくなる可能性もあり、そうすると、中国では軍事勢力が強い力を持ち、台湾に悪い影響も与える可能性もあるだろう、とのことだ(渡辺氏)。

本シンポジウムでは、経済では密接な関係にある「兩岸」と、軍事的・政治的な「対立」の両方の矛盾を認識しつつ、いずれも怠ることができない台湾の複雑な立場が、浮き彫りになった。

最後に、台湾の「香港化」という質問については、三氏とも「ありえない」との意見だった。

~「慶祝中華民国建国100年関東地区懇親会」開催~ 台湾と日本の絆をさらに大きなものに!



「慶祝中華民国建国100年関東地区懇親会」は近年になく盛況となった。

関東地区の台湾系華僑団体が一堂に集う「慶祝中華民国建国百年記念一関東地区懇親会」が2011年9月17日、ホテルオークラ東京・アスコットホールで行われた。主催は中華民国建国100年関東地区実行委員会。懇親会への参加者は在日台湾華僑だけではなく、日本政界、企業や団体の役員なども多く、約280名が参加した。

参加者は、主催者である「中華民国建国100年関東地区実行委員会」会長朱恭亮氏、台北駐日経済文化代表処・代表の馮寄台氏、財団法人交流協会・高木篤理事長、参議院議員大江康弘氏、参議院議員魚住祐一郎氏(公明党)、衆議院議員小林興起氏(民主党)、衆議

院議員田中和徳氏(自由民主党)、衆議院議員中津川博郷氏(民主党)、日比谷松本樓常務取締役・小阪文乃氏(日本にあって孫文を助け辛亥革命を成就させた功労者の一人・梅屋庄吉のひ孫にあたる。昨年辛亥革命時の孫文と梅屋について書いた「革命をプロデュースした日本人」を上梓)。小坂氏は中華民国建国の父・孫文について、その当時の革命の歴史、現在の日台政治・経済関係、東日本大震災への台湾からの多大な援助への感謝を述べ、さらに、これからの日台友好関係、最近話題になった台湾出身者の戸籍問題について熱く語った。

挨拶の後、中華民国建国百年・聖火リレーの儀式が行われた。このハワイから運ばれてきた「聖火」は10月8日まで日本国内をリレーしてまわり、10月10日の双十節前に中華民国台湾に着く予定。

ひと通りの挨拶終了後、懇親会となった。懇親会の最初では、日本の華僑団体のまとめ役である日本中華聯合總會会長・毛友次氏による乾杯音頭があった。会場には獅子舞、舞台ではバンド演奏、台湾人と日本人のハーブのプロ歌手、翁鈴佳さんによる歌など、賑やかなパフォーマンスで盛り上がった。

台湾紹興酒

■産地

紹興酒は中国の名酒、「老酒」とも呼ばれている特徴としては濃厚な香りがある。中華料理には欠かせないもの。

現在、日本では、中国産の紹興酒を多く見る。しかし、20年ほど前まで日本でよく見かけたのはむしろ台湾紹興酒だった。その理由は、台湾紹興酒の質の高さ、また、原料とアルコール度が清酒に近いからである。そして、そのほとんどが台湾埔里酒廠のものだった。

台湾紹興酒を製造販売している「臺灣蔘酒股份有限公司埔里酒廠」は南投県埔里にある。埔里酒廠は、1917年に民間企業として設立され、戦後初期は清酒、米酒などを主に製造したが、1952年に紹興酒の製造に成功し、その十数年後、紹興酒を中心に大量生産、現在に至った。

埔里は合歡山、日月潭、霧社風景の要所に位置し、気候は良い。その中に、台湾一と言われる「愛蘭甘泉水」が有名。年々改良される技術に伴い、台湾紹興酒は、熟成年間により種類が違い、陳年紹興酒、花雕紹興酒は質の高い紹興酒として名を知られるようになった。

台湾紹興酒は、熟成年間により種類が違い、陳年紹興酒、花雕

酒、精釀陳年紹興酒、十年窖藏精釀陳年紹興酒がある。10年もののが最も良いとされるが、一般的に飲まれているは3年のもの。

■効能

上記した紹興酒は、食欲増進、疲労回復、消化を助ける保健効能があると言われている。そして、酒(se)が多く含まれるため、老化の緩和、高血圧、心臓病を防ぐにも効果的である。また、紹興酒はお酒の中ではカロリーが低いのである。あまり知られていませんが、紹興酒は栄養価の高いお酒である。

■現状

日本市場では20年前まで台湾紹興酒が90%を占めていた。しかし、近年は中国の紹興酒を多く目にするようになった。その理由は、元々台湾紹興酒を扱っていた代理店が投資に失敗し、新しい代理店に変わったが、市場の仕組みを知らず、供給がうまく行かなかった。また、宣伝が足りなかったのも一つの理由である。東永貿易の河道台氏は語る。同時に、中国は市場開放、廉価な紹興酒が日本に進出することとなり、次第に、台湾産紹興酒の売上が年々下落することとなった。

台湾「陳年紹興酒」の味は濃厚、香ばしく、「十年窖藏精釀陳年紹興酒」を飲めば究極の紹興酒と誰もが納得する。いかに戦略を練って、より手頃な価格で提供するかが貿易商のこれからの課題となるであろう。



台湾紹興酒を専門に扱う台湾料理屋「新台台酒館」。

台日文化交流コンサート in 浅草



唐韻楽集の音楽をバックに、レプラカン歌劇団の踊り。歌は華聖さん。

唐韻楽集の音楽をバックに、レプラカン歌劇団の踊り。歌は華聖さん。中華民國(台湾)建国100周年を記念し、東日本大震災チャリティー「台日文化交流コンサート」が、9月12日、東京・浅草の浅草公会堂で開催された。同コンサートは、9月14日に石川県立音楽堂・邦楽ホールで、また、9月16日には大阪市・世界館でも開催された。今回の東京公演の主催は世界華人工商婦女会協会、共催:山梨台湾総会、台湾新聞社。協賛:台湾観光協会、後援:台北駐日経済文化代表処・亜東親善協会。

コンサートは台北駐日経済文化代表処の羅坤燦副代表の挨拶から始まり、レプラカン歌劇団の華麗な歌と踊りが続いた。少人数ながら、華やかな歌と踊りの舞台は、宝塚歌劇を彷彿とさせる選曲、そして化粧やコスチュームだったが、そこに少人数ならではの独特な味付

けと緊張感が漂い、素晴らしいステージとなった。

次に「唐韻楽集」の、台湾の伝統の音楽と楽器を駆使しつつ、現代的なアレンジでスピード感のある音楽が流れ、会場はそのシャープなリズムに乗った。そこに、石川県で活躍する台湾人歌手、華聖さんが加わった。華聖さんの最近のヒット曲「生きる」では、作曲者のせきぐちゆきさんとデュエットで、素晴らしい歌声を聞かせてくれた。さらに「夜来香」などおなじみの曲とレプラカン歌劇団の踊りも加わり、素晴らしいステージとなった。

コンサートが終わり、会場から出て何人かの方にお話を伺ってみると、みな口々に「楽しめました!」「すばらしい!」と感激していた。中には「会社の人に行け、と言われて来たのだが、実にすばらしいので、最後まで夢中になって聞き入ってしまった。台湾の方々ありがとうを言いたい」という方もいた。

夏を過ぎ、秋に入ったとはいえまだまだ暑い東京が、ますます熱くなった夜だった。



曾俊凱師匠によると、一日一本の紹興酒を使用するときも多々あるという

中華料理店で紹興酒を多く用いるのは、料理の色を鮮やかにするため。野菜炒めには特に適している。それだけではなく、調理酒に勝るのにはやはりその芳醇な味。そのため、米酒より海鮮料理にふさわしい。新宿台南担仔麵の曾俊凱師匠によると、10品の料理のうち、8品に台湾紹興酒を使うと話す。特に台湾紹興酒はガラス瓶包装のため、透き通っている。料理に安心して使える。

Dr.周東 テレビ出演
テーマ: 医師がとびついた健康法
【週間!! 健康カレンダー】
カフツのキモチ 6ch TBS
放送予定日: 11月20日(日)
午前7:00~午前7:30
Dr.周東が語る医師の健康法もお教えいたします!!
プレゼンター: 深沢科之さん

100%海洋性コラーゲン 美鱗物語
特別抽出法利用。天然の魚鱗から抽出されたフィッシュコラーゲン、無汚染で安全。飲むフィッシュコラーゲン、無添加で安心。低分子量、消化吸収がしやすい。高品質 45000mg 配合。
詳しくはホームページへ <http://scaletalk.jp>
お問い合わせ 03-5812-4868 info@scaletalk.jp
有限会社 美至 東京都台東区上野3-21-1 宮本ビル2F

美鱗物語
飲むコラーゲン、無添加 低分子量、消化吸収しやすい

★山手線新大久保駅2分 ★総武線大久保駅1分
嘉南旅行社
東京都知事登録旅行業第3-4417号(社) 全国旅行業協会正会員
台北 ¥25,000(税別) 北京 ¥30,000(税別) 上海 ¥35,000(税別)
大連 ¥32,000(税別) 韓国 ¥27,000(税別) 越南 ¥32,000(税別)
香港 ¥32,000(税別) 曼谷 ¥32,000(税別) 新加坡 ¥32,000(税別)
●代辦中國、東南亞簽證、臺灣證、港澳證●日本國內觀光、溫泉、滑雪旅行●世界各地便宜機票、酒店及團體旅行●來日團體約酒店、派車、導遊●電腦訂位、送機、確實
精通國、臺、日語服務親切 銀行匯款口座 三菱東京UFJ銀行練馬駅前支店 (普)3678888 (名義) 嘉南觀光(株)
營業時間: 週一~五 9:30~18:30 週六 9:30~13:00
TEL: 03-3366-3988 FAX: 03-3366-2989
地址: 〒169-0073新宿区百人町2-20-1第二岡田屋ビル401

窖藏精釀陳年紹興酒

美しく輝く琥珀色と豊かな香り

良質なもち米と名水『埔里の水』を使用した添加物など一切使わない製造方法
10年もの長い歳月をかけて醸造された上品でまろやかな味わい
美しく輝く琥珀色と豊かな香り『窖藏精釀陳年紹興酒』



TTL 台湾菸酒股份有限公司
日本総代理
TOEI 東永商事株式会社

〒231-0801
横浜市中区新山下3-2-9
TEL:045-625-3658
FAX:045-625-3656

※飲酒運転は法律で禁止されています。お酒は二十歳を過ぎてから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。

今年最大「台湾祭り」開催



電音三太子のステージ

トップのほとんど、台湾の政府の関係者のほとんどが集うだけではなく、ネットや新聞などで「台湾祭り」を知り、台湾グルメや踊りなどを狙って来た日本人も非常に多く、会場は終始大賑わいだった。キッチンカーなども多く出て、台湾のグルメが存分に楽しめたが、連日どのキッチンカーにも長蛇の行列ができた。アトラクションでは、ステージでの「電音三太子」が大受けだった。連日数回の出演だったが、3日の最後のステージでは観客が電音三太子とともに踊りだすほどだった。



2日祭、多くの人が見られた

今回の台湾祭りは、台湾系華僑団体、台湾の大使館、など東京とその周辺に華僑も一同に集まるイベントだったが、東日本大震災の被災者へのチャリティの意味もあった。目標としていた300万円はすぐに集まり、「チャリティ」としても大成功だった。閉会の辞で日本中華聯合総会の毛友次会長は「来年もイベントをやりましょう」と高らかに宣言した。毛会長の宣言のあと、会場にいた主催者、関係者、スタッフが集まって舞台の上で合唱。「台湾祭り」は幕を閉じた。

主催の日本中華聯合総会・台湾祭り実行委員会の方々はじめ、後援、協賛をいただいた団体、各社の皆様、本当にお疲れ様でした。



少数民族の踊りも大好評だった



中華獅子舞も子供たちに人気

恵比寿ガーデンプレイスで、2011年9月3日と4日の両日、台湾の華僑団体が主催の「台湾祭り」が開催された。台湾の食べ物、踊りや歌などの催しものなどで、午前11時の開

会から午後8時までの閉幕まで、連日賑わった。折しも台風12号が接近することによって警戒はしていたものの、東京地方は大荒れの天気にはならなかった。関東地方の華僑団体の

「台湾祭り」義援金を福島県へ

9月3日、4日に開催された「台湾祭り」。その台湾祭りでは、東日本大震災の被災者に向けて、300万円以上の義援金が集められた。9月12日に、台湾祭りの主催をした一人である、張維正(日野正志)さん(日本中華聯合総会の会員代表の一人でもある)が、福島県選出の参議院議員、岩城光英氏を訪問し、岩城氏を通じて、福島県東京事務所所長、星春男氏に「台湾祭り」で集まった義援金を手渡した。写真の後、歓談となったが、特に福島県東京事務所の星所長は、台湾からの義援金や素早い救援がされたことに感謝の意



(左から)シンガポール海南商會の専務取締役・廣原周右氏、台湾新聞社主・錢妙玲、福島県東京事務所所長・星春男氏、参議院議員・岩城光英氏、日本中華聯合総会会員代表・張維正氏。9月12日、福島県東京事務所にて。

を表し、これからも台湾と日本との絆が深まっていくことへの希望を語った。これに答えて、今回の台湾側からの代表である張維正氏は、日本にはこれまでも大変にお世話になり、これからも台湾と日本のより深い交流が続くことを願っている、と答えた。

第7回台湾主権記念会・講演会と音楽会 ~台湾の主権について語る許世楷と暖かなハーブの音色~



講演者の前・台湾の政府駐日大使・許世楷氏



台湾主権記念会の会長・中山博雄氏



ハーピストの彩愛玲さんの演奏は素晴らしい音色。会場は温かな雰囲気包まれた。

第7回台湾主権記念会の講演会と音楽会が、東京・池袋のホテルメトロポリタンで開催され、約80名の参加があった。最初に挨拶したのは、台湾主権記念会の会長・中山博雄氏。中山氏は最初の挨拶と、講師の許世楷氏について紹介した。

今回の講演会の講師は、日本での滞在歴38年、2008年まで台湾の政府の駐日大使を勤め、日本の政界、産業界、学会にも多くの知己を持つ許世楷氏。許氏は、「台湾の主権」をどう考えるか?ということについて、国際法学者としての自らの見解を語り、蔡英文氏、馬英九氏など、台湾の代表的な政治家が台湾主権についてどのように考えているか?ということについても紹介。それぞれの政治家の「立場」による違いを浮き彫りにした。また「台湾」は独立した国家としての体裁を成しているが、「中華民国」と大陸中国の政権とのかわり、唯一その真の独立を防いでいるのではないかと、という自論を語った。

また、現在のところ米国、日本とも「台湾は中国の領土である」とは、語っていないこと、そして、1972年の日中共同声明では、台湾についての中華人民共和国の主張について「尊重し理解する」という表現が取られ「台湾は中国の一部である」とは認めていないと

いう、これまでの多くの日本政府要人の発言を紹介しただけでなく、2007年に当時の台湾の政府の陳水扁総統が国連に対し「台湾」という名前での加盟申請をした、ということは大きな事件であり、これを続けるべきだ、と、許氏は語った。

また、レディー・ガガが台湾に来たとき「私は台湾という国が好きだ」と自身のネットで発言。これに対し、「台湾は国ではない」というコメントがあったとき、ガガが「台湾は国家だ」と誰かが見ている」と反論したことを紹介。「一般的に言って、既に台湾は独立した国家であると思われている」ということを許氏は強調した。また、来年の総統選に出馬する蔡英文氏は、大陸中国とは「和して不同」、つまり「台湾主権」を主張している、と語っていること、また「和にして同」も求め、主張はお互い違っても、お互いが平和に暮らすことを望む、という考えもあること、そしてさらに進んで「台湾の発展」を「民主的な手続き」で求める、ということが語られているという。つまり、台湾という主権をはっきりと持ちながら、大陸中国も含めた周辺諸国といかに平和的な発展を求めると、ということも語っているとのこと。ここが、馬英九氏と蔡英文氏の大きな違いである、と、許氏は語った。最後に、許氏は、現在の総統選挙の状況

を語り、最近の民進党の世論調査では、それぞれの支持率は民進党43.6%。国民党44%となるなど、それぞれの支持は伯仲しているとのことだ。台湾の世論調査では多くの人が「現状維持」を表明していること、「台湾人」としてのアイデンティティはあるものの、あまり強くないこと。しかし、自分のことを「中国人」と思っている人はあまりいないことなどを語り、これが選挙にかなり影響を与えていることを強調し、許氏の話は終わった。

その後、質疑応答があり、馬英九氏がなにを考えてそのような考え方になったのか?などについて質問があった。許氏はこの答えの中で「台湾が中国か?」がはっきり問われている、ということも語った。また、個人的な情や、物、お金のやりとりの中で投票を決めるのではなく、国家としてどうするのか、という大きな視点を持って投票をすることが大切だ、ということも許氏は語った。

講演会が終わると、ハーブの演奏。演奏するのは、日本と台湾のみならず、世界で活躍するハーピストとして有名な彩愛玲さん。会場は甘く静かなハーブの音に酔ったばかりでなく、彩さんはハーブの歴史についての蘊蓄も語り、会場では大きな拍手が湧いた。講演会と演奏会の後は、同ホテルの場所を替え、許氏を囲む懇親会となった。

中華民国留日東京同学会 バーベキュー大会

台湾で「中秋節」は、9月12日。実際のお祭りは週末を含め、10、11、12日の3日間となる。この時期、在日の台湾系華僑の各団体も多くの中秋節行事を行う。台湾の中秋節では、家族や仲間、地域でバーベキューを行う、ということが多く行われており、在日の台湾系華僑団体でも、多くのバーベキューなどが行われている。

その1つとして、9月10日、台湾からの留学生の親睦団体である「中華民国留日東京同学会(会長:曾愛迪さん)」が、東京の新木場駅近くの新木場公園でバーベキュー大会を行った。当日は夏に戻ったかと思うほどの晴天に恵まれ、来賓として、台北駐日経済文化代表処・文化組組長斯古甫氏の参加があっただけでなく、在日台湾商工会議所の李浜茂会長、台湾新聞社の錢妙玲社主なども訪れ、日本の友人70名、と80名の台湾からの留学生、合計150人の参加があった。



東京崇正公会・台日交流音楽会



中華民國建国100年を記念した多くの催しが日本でも主に台湾系の華僑団体主催で行われている。9月20日、文京シビックホールの小ホールで、東京崇正公会主催の「慶祝・中華民國建国100年記念・台日文化交流音楽会」が開催され、約300人の参加があった。後援は行政院客家委員会・僑務委員会・台北駐日経済文化代表処・財団法人交流協会。

まず、司会の中原昂氏から紹介され、壇にあがって挨拶したのは、東京崇正公会の会長・重光茂榮氏。その後、来賓代表として台北駐日経済文化代表処の陳訓和副代表が挨拶。続いて今回の音楽会の主役、台湾頭份鎮



婦女合唱団(名誉団長・徐耀昌、指揮・林月嬌、ピアノ・饒家祥)の合唱が始まった。曲目は客家歌謡を中心としたものだった。次に邱美艶さんの日本舞踊。続いて、萩原えりこカルテットのジャズボーカルと演奏で、テネシーワルツが始まった。途中で中原昂氏と萩原さんのデュエット、中原氏の独唱でジョージ・オン・マイ・マインドなどのポピュラーやジャズのスタンダードナンバーが歌われた。

その後、参議院議員・西田まこと氏が流暢な北京語と日本語で挨拶し、会場の喝采を浴びた。その後、合唱団の名誉団長(現台湾立法委員)徐耀昌氏が挨拶、元国務大臣の愛知和夫氏が荒城の月を歌うなど、珍しい場面が続いた。愛知氏の独唱の後には、再び台

湾頭份鎮婦女合唱団の登場。客家の歌謡などが歌われ、最後に客家の象徴とも言える曲「客家本色」の大合唱となり、重光会長はじめ、来賓の方々も舞台の上で歌った。演目が終わると、合唱団に重光会長から感謝状が贈られた。終わりの言葉は、大会執行長の林鐘貞連会長代行が行い、音楽会は幕となった。その後、舞台で役員、理監事などが集まっての記念写真撮影を行い、音楽会は終了した。



台湾新聞華僑杯 ゴルフ親睦大会開催のご案内

開催日時: 平成23年11月06日(日)
開催場所: 霞ヶ浦国際ゴルフコース 〒305-0063 茨城県つくば市下原368 TEL: 029-836-1154
参加費: 3,000円 ※賞品代・パーティ費など込み 15,000円 ※昼食事代・パーティ付き・プレー費以外に
プレー費: ゴルフ場でのアルコール飲料、その他経費は各自負担をお願い致します。
表彰式及び懇親会: 霞ヶ浦国際ゴルフコースのレストランにて、同日午後4時から。
大会に関するお問合せ先: 張本立(080-3205-5557)/鍾幸昌(090-6163-5588)/頼浩生(090-7723-7286)/黄保川(090-4459-1688)/錢妙玲(090-3225-8828)
締め切り: 10月20日まで
主催: 台湾新聞社 TEL: 03-3987-6379 FAX: 03-3590-5798

『いかにも台湾、やっぱり日本』第10回

「小籠包? ギョーザ?」

作家 亜洲奈みづほ



台湾グルメ「鼎泰豊」の小籠包。常連者は週に3~4回も訪れるという。

中国大陸なのだ」と感動したおぼえがある。具の肉は豚肉本来の味をきわだたせており、濃厚な味わいだ。台湾の「鼎泰豊」小籠包は、具が大きくてサイズもひとまわり大きめ、お徳な気分になる。日本人の抱くギョーザの感覚に近いだろうか。具の肉は、あっさりとした洗練された食べごこちである。両者の対決は台湾の某テレビ番組でも、おこなわれており、「上海の、この安さは、捨てがたいものがあるわねー」、「でも皮の厚さが違う。台湾のほうが具が多い」と賛否両論であった。そんな上海にも、かの「鼎泰豊」は2店舗も設けている。小籠包の逆上陸!

この題名を御覧になって、「おや」と思われたかた。なぜ、この両者が比較されているのだろう。秘密は、その発展経緯にある。

台湾で小籠包(ショーロンポー)と言えば、筆頭にあげられる店は「鼎泰豊(ティンタイフォン)」この店は中国大陸出身者によって開発され、上海料理が台湾グルメとして世界に名をはせるのを促した。台北の永康街に1号店が開店したのは、1958年のこと、山西省から台湾に渡ってきた楊秉彝が創業者である。といっても当初は食用油を販売する油問屋の副業として小籠包が扱われるにすぎなかった。契機は1993年、米国の大手紙ニューヨーク・タイムズに「世界の10大レストラン」として本店が選ばれ、「スープ入り茹で団子の神秘」として1面を用いて大々的に紹介されたことにある。その味は台湾人を魅了、国内に5支店を拡大したばかりでなく、米国や豪州、東南アジアなど世界9か国に25支店を展開、日本にも、なんと12支店を持つ。本店だけでも平日には平均1500人、休日であれば2,000人~3,000人の客がおしかけるほどの大人気だ。

そんな「鼎泰豊」のおいしさの秘訣は、ポイントが薄めの皮5グラムに対して、具はたっぷりの16グラム。ちなみにヒダは18枚と決められている。鮮度に、こだわりがあり、注文から15分以内に蒸されていないものは、捨てられてしまうくらいの徹底ぶりだ。せいろも亀裂ができやすいので、3ヶ月に1回は取りかえられているそう。何よりも特筆すべきは、皮の内に込められたスープだ。これはもともと、豚皮の煮ごりのゼラチンが、せいろで蒸されるさいに溶けだして、皮の中でスープと化したものだ。考えてみれば、当店の前身は油問屋。するとあのゼラチンスープのおいしさは、油問屋の血筋にあり?

気になるのは、発祥とされている上海市郊外の「南翔」小籠包に対してだ。筆者が食べ比べてみたところ、南翔のほうは、皮の厚みに食べごたえがあり「やはりここは日本でない、

赤や黄、緑の色合いと、立体感溢れる龍の彫刻...廟の光景も台湾ならではの見どころ。また廟の一角には香がほんのりと漂い、作法も分からない異国人の私ですら信心が生まれてくるのが不思議なところ。やはり実際に赴く廟が、映像や写真で見るとより奥深く感じられるのは、香りを感じられるという点が大いにある。

台湾ならではの食の特徴

台湾で活躍する日本人テレビ司会者 - MATSU

テレビや写真は、色合い、豪快さ、動きのスピード、音声は撮影によって伝えることはできても、においで伝えることができない。実際に体感することの良さは、臨場感、空気感を味わえるところ。香りを楽しめるのは、旅の醍醐味でもある。

さて、廟は、もちろん歴史を連想させるが、廟と聞いて「食」を連想してしまう台湾好きの日本人も多いのではないだろうか。新竹の城隍廟、基隆廟口、豊原廟東夜市...

新竹城隍廟には早朝しか開いていない魯肉飯の店がある。4時20分開店ですその日の分を売りつくせば閉店。なんとかありつた

め、早朝4時に起床して出向いた。夜が明けてまもなく新竹の街は人の気配もほとんどなく、たまに野良犬が徘徊している程度。

こんな時間に、開いている店などあるのか...?まして私にとって「ものを食べよう」と食欲の湧く時間ではない。しかし、城隍廟に



入ると雰囲気は一転。店も客も居て、活気に溢れている。異空間のように思えたが、活気に満ちた光景を見るだけで、私の食欲にも火がついた。味はもちろん格別。たか

が魯肉飯。されど魯肉飯。その一杯が、「閉店時間の制限」という付加価値をつけ、さらに、貴重なものと思えた。

台湾人と日本人で好みの差がはっきり出

る食べ物がある。「臭豆腐」もその一つだ。日本で放送される台湾グルメ番組ではほとんど出てくる一品、「くさい」と言うレポーターもいるが「やみつきになる」というレポーターもいる。たいていどちらか極端なリアクションだ。

ただし、この臭豆腐、画面では、「普通の揚げた豆腐」にしか見えない。受け入れられるか受け入れられないか、こればかりは、やはり現場に行ってみなければ分からない。もし受け入れられれば病みつきになるくらいのインパクトがあるだろうし、受け入れられないとすれば、隣近所の別

のものも食べられないかもしれない。発するにおいが強烈で、周辺の店にも影響を与えるからだ。

以前、日本人カメラマンと台湾夜市で撮影を行ったが、カメラマンが臭豆腐のにおいに絶えきれず、やむを得ず撮影を中断し場所を移したことがある。かといって、台湾グルメが堪能できなかったかという、そうではない、一方でオアチエンや香雞排は、店が放つにおいから「ここで食べたい」と大層気に入る、何個か食べていた。信心が増したり、食欲をそそられたり...、においが我々を刺激する力は小さくない。やはり現場に出向いてこそだ。



写真(左):書道・水墨画チャリティー交流展示会開幕セレモニー
写真(中):展示された作品
写真(右):売上は被災者への義援金となる

売上は震災被災者への義援金へ ~ チャリティー展示会開催

福岡県太宰府市で2011年9月16日から19日まで「書道、水墨画チャリティー交流展」が開催。NPO法人山口国際経済文化交流促進協会などが主催したもので、台湾や日本等の書道家、画家らが持ち寄った作品約50点が展示されている。展示された作品の売上は全て東日本大震災被災者への義援金となる。

開幕イベントでは、会場となった太宰府館の篠原司館長が「東日本大震災復興支援という大きな目標を持った取り組みに対して心から敬意を申し上げるとともに、一日本人として感謝を申し上げたい」と挨拶した。

主催者であるNPO法人山口国際経済文

化交流促進協会の陳麗俊理事は「台湾での1999年の震災、2008年の水害では日本から多くの支援を得た。今回の日本での大震災に際し、我々にできることはないか」と考えた結果、今回のチャリティー展示会の開催となった。来場者には各作品を味わって欲しい」と抱負を述べた。

また台北駐福岡経済文化弁事処の曾念祖処長は「日本と台湾との友好関係が末永く続くことを願い、チャリティー交流展の主催者の皆さんに感謝したい」と述べた。

交流イベントでは琵琶も演奏され、訪れた人達は書道や水墨画の美しさのみならず、琵琶の音色にも酔いしれた。

MATSU プロフィール MATSU(阿松)

台湾で活躍する日本人テレビ司会者。台湾のテレビ局衛星放送のグルメ番組「大口吃遍台湾」のMCを務める。これまで本書の東西南北/金門/馬祖/蘭嶼/綠島/小琉球等を食べ歩き、番組内で「台湾の食の風景」を伝える。同シリーズはアメリカ、カナダ、中国、日本など世界で幅広く撮影を行い、その映像を台湾の視聴者に届けている。

台湾を憶う日本人(17)

スケッチブックとカメラを持って - 原田あかねさん

林雅行(映画監督)

「エッコ」という撮影・技術会社に録音の仕事をする原田あかねさん。TV番組の取材、スタジオ、CMの撮影。中継車に乗ったりライブの収録に出かける。台湾には3回行った。最初は、2008年で日本から安室奈美恵が出演する台北アリーナでのライブの仕事。その後、2009年に2回。台湾の印象は「元気がある。おおらかで人なつっこい」。

群馬県前橋で生まれた原田さんは、父の仕事の関係で川口、横浜と移り、高校生の頃はデザインに関心を持っていた。CGが世に出始め、関心がCGに。専門学校でCGの勉強を本格的に始めた時、授業の一つに撮影があつて今度は、撮影の道に入り込んだ。始めは撮影機材のレンタル会社に就職したが、しばらくして「エッコ」に入った。

撮影は海外ロケも多い。アメリカ、グアム、モスクワ、モノコ、パリ、タイ、中国、香港など。昨年は2002年、インドネシアから独立した東ティモールにも出かけた。実は、これは私の会社の仕事です。NHKの番組で、東ティモールの田舎の女性たちが、自分たちで仕事を作り出そうと、「ソラマメチップス」を開発するドキュメンタリー。原田さん取材チームは山の中に滞在してくれました。

さて「ツアー」は苦手でアクティブな旅が好きという原田さん。プライベートでいったハワイの思い出が心に残っている。ワイキキには行かず、島へ渡り、イルカやマンタと泳いだ。一眼レフのカメラで景色を撮り続けた。絵も描いた。「デザインの勉強をしていた時は、1

日1枚はデッサンしていた」。3回行った台湾だが、3回共、台北市での撮影だった。夜遅く仕事が終わって街歩きしかできなかった。「夜遅くまで活気があって驚いた。夜市の屋台で「安くておいしい食べ物」を口にした。「焼餅が好き」という。

原田さんは「次は台北でなく郊外にも行きたい」。日本人歌手のライブや日本のTVの番組は、多くは台北中心で、台北から近い淡水、陶器の街の鶯歌や三峽の古い街、かつて金鉱で栄えた九份や金瓜石、古くからの港町基隆は、ライブやTV番組とはなじみが薄い。原田さん「カメラにおさめたい、デッサンしたいもの山ほどありますよ! (私がこの場でのいうのも変ですが...)」。

ロケの時は、録音の仕事は重い機材をかついでカメラマンと共に動き回る。それに移動の時は、三脚を持って急ぎ足になる。頭を使うだけでなく体力も使う。TV画面しか見ない視聴者は海外ロケと聞くと「いいなあータダで海外に行けて」というが、マネージャーつき、荷物持ちつきのタレントならいざ知らず、スタッフは画面では見えないところで過酷な労働をしているのです(業界の実状はあまり知られていませんが)。ちょっと話がずれてしまいましたが、こうした重労働に従事する原田さん。祖母は日本舞踊の名取、母も後を継



いだ。その影響もあり、着物を着るのが好きなのだという。

知力、体力だけでなく、おしとやかなのですね。着物姿はお見せできないのですが、写真は素敵な笑顔です!

【2011年9月1日号/No.155/日本語版】お詫びと訂正

4面:台湾で「台湾人の心」を見る旅:「それも麗天の人々からだ。」正:「それも麗天の人々からだ。」の間違いです。

6面:関東の華僑団体が集う「建國百年記念祭」旅:「協力:大日台湾商工会議所」正:「協力:在日台湾商工会議所」の間違いです。

以上、悪人でお詫び申し上げます。訂正させていただきます。

経済的な台湾正規留学

留学には高額な費用が掛かるというイメージがある。実際に、欧米の大学に進学しようとすると年間300~400万円は下らない。もちろん新興国では比較的安い費用で大学に行くことが出来るが、治安や教育レベルに対する不安からなかなか一歩踏み出すことは出来ない。そこで注目されるのが台湾。台湾に行ったことがあれば、台湾の生活環境が日本によく似ていることは分かる。そんな台湾の大学へは年間約30万円の学費で通うことが出来る。更には、外国人留学生の為にだけ年学費を約10万円に設定している大学もある。学費だけでなく非常に魅力的であるということが分かる。

大学4年間にかかる費用を計算してみると、日本の国立でおおよそ460万円、私立でおおよ

650万円。日本は更に予備校費用や下宿代が別途発生するケースが多い。対して台湾は寮費込みでも4年間で220万円程度と半額以下。台湾正規留学希望者は台湾大学進学予備校に通い、当センターで申請代行を請け負った場合でも、国立で370万円、私立で350万円ということでもどちらか安い。国立の学費が安いと思われがちだが、今年から施行された法律では外国人留学生の学費は国立も私立も同じになったうえでのこの費用だ。

大学の良し悪しは費用だけで判断するものではないが、経済的に大学進学を諦めないといけない学生もいる現実では、台湾の大学への進学が経済問題の解決策にあるかもしれない。

第4回台湾大学見学ツアー 開催予定

ツアー内容:3日間の日程で台北(桃園)、台中、高雄にある日本人歓迎大学を見学します。現地集合・現地解散ですので、参加可能な日をご自由に選んで参加して頂けます。一部大学では担当者が直接学校の紹介をし、皆様のご質問にお答えします。

日時:2012年1月4日(水)~6日(金)の期間中、参加日を自由に選択出来ます。

費用:1日10,500円/人~21,000円/人
訪問予定校:国立台湾大学、国立台北大学、銘傳大学、東海大学、開南大学、義守大学他。

詳しくは、<http://taiwanryugaku.com/> をご覧下さい。

観光台湾の魅力を語る ~2011年台湾観光セミナーと懇親会~



冒頭に挨拶した、台湾の政府交通部観光局長、賴翠珍氏



来賓として挨拶したJATAの金井敬(あきら)会長



台北市政府観光伝播局長の趙心屏局長



観光セミナーで訪日した観光局長をはじめとした方々

今年も台湾の政府・交通部観光局長が主催する「台湾観光セミナー2011」が、9月28日、東京の帝国ホテルで開催され、台湾からの業者の130名近くの訪問団を含んだ台湾からの観光関係者、そして日本の観光業者など約250人が集まった。東日本大震災があった今年2011年は、台湾の政府である中華民国政府ができて100年という年にもあたる。しかし震災がありながら、日本から台湾への観光客はむしろ16%ほど増えており、順調にその数を伸ばしている。

最初に挨拶に立ったのは、台湾の政府・交通部観光局長の賴翠珍氏。日本のテレビ番組で台湾の観光地が使われたこと、今年は旅行博への参加で飛輪海などのイメージキャラクターを使い、10月1日のファンミーティング、10月2日の旅行博への参加なども行っ

ており、特に力を入れていることが語られた。その他、台北市内の孔子廟などもリニューアルされるなど、多くの観光エリアが整備されたことなども語られ、台湾への観光がいに日本人にとって素晴らしいものであるかをアピールした。また、10月からは新しいCMを用意していることなども語られた。台湾は新しい観光地が絶えず増えている。

次に来賓として、JATAの金井敬(あきら)会長が挨拶。まず、東日本大震災直後から台湾の観光関係者から「台湾希望の旅」をいただくなど、多くの支援について感謝の意を述べた。金井会長は、日本の国内の観光事情も大震災前以上に戻ったことなどを語り、順調に回復が進んでいることが語られた。最後に、日本への観光客の数は、特に台湾からの観光客数が一番で回復していることなどが語ら

れ、この流れを拡大していきたい、とつないだ。また、JATA主催の旅博、国際観光フォーラムについても、大震災の影響で予定変更などが考えられたが、なんとか予定を変えずに行われたことに対し、台湾の観光関係者にもお礼を述べた。

その後、台湾から来日した政府や自治体関係者と130名近い観光業者の訪問団の紹介があった。中にはホテルなどだけではなく「ハイパワー」などのタクシー会社の名前もあった。

次に、台北市政府観光伝播局長の趙心屏局長が台北市の観光について紹介。趙局長はイメージキャラクターとして「BIG」という鳥のキャラクターを紹介。白い鳥だが、頭が赤く、くちばしが黒い、大変に活発で明るい性格の鳥とのこと。また、趙局長は台北の観光のポイントとそれらを結んだいくつかのモデルコースも紹介した。歴史、自然などを織りまぜたこれらのコースは、大都市である台北周辺にも多くの見どころがあることを教えてくれる。趙局長は他にも台北市のあらゆるところに、無料で使える無線LAN施設などが設置される計画があることなども語られ、観光だけでなくビジネスにも最適であることを語った。もちろん、剣路市動物園から贈られた丹頂鶴のことも語ることを忘れなかった。

次に、台湾と日本の間の観光客の往来などについての統計情報などについての発表があった。特に8月は過去にない11万人以



セミナーの前には、台湾観光業者による商談会が開催された

上の日本人が台湾を訪問したとのこと。

台湾と日本の観光は、東日本大震災の影響を受けたところもあった。しかしながら、全体的には持ち直しているところか、むしろ震災前よりも観光関連の業種の動きが活発であることが印象深い、今年の「台湾観光セミナー」だった。



セミナーの入り口では、少数民族の衣装を着た舞踊団が迎えた

台湾から日本・日本から台湾への観光客推移

2011年3月11日、日本を襲った東日本大震災と、その地震によって起きた津波により大規模な爆発と放射能漏れを起こした福島第一原子力発電所の事故により、日本を訪れる外国人観光客の数は、大幅に減っただけでなく、もともと不況にあえいでいた日本人の外国への観光旅行を大幅に減らす結果となった。外務省が発表している日本人の出国統計によれば、日本人の出国は軒並み10%減から、多いところで40%近い減となっている。しかし台湾に限ると、日本人で台湾への出国をしている人数は、むしろ増えており、事故のあった2011年の統計では前年同月比+1.9%、その翌月の4月には前年同月比+9.0%となっている。さらに、今年7月の統計ではなんと+19%となっており、日本人は震災前よりむしろ震災後に台湾へ多くの人々が訪れて

いる。台湾は東日本大震災を受けた日本に対し、世界でもっとも多い、トータルで200億円以上の義援金を送ったことなどが日本のマスコミでも報道され、日本人が「海外旅行にいくなら、お礼の意味で台湾へ行こう」と考えた、ということも理由としてはあるのかもしれない。一方、訪日する外国人の統計を見ると震災後は軒並み前年同月比50%前後の減となっている。台湾から日本への訪問者数だけを見ると、震災の翌月の4月には前年同月比70%近い減となっているものの、その後は30%減ほどになっており、最近ではその数は前年の数に戻る気配がある。台湾の政府の観光局長をはじめ、台湾の観光業者も総出で「日本観光は安全」ということを台湾内に宣伝しており、その効果が現れていると言える。

台湾映画大作「Seediq Bale」(セデック・バレ/賽徳克・巴萊)

総括プロデューサー黄志明氏にインタビュー

1930年に台湾で発生した原住民による抗日事件・霧社事件を生々しく描いた「セデック・バレ」。

ピピアン・スーのほかに、人気女性歌手ランディ・ウェン(温嵐)、アイリーン・ルオ(羅美玲)などの原住民の血統を持つ人気スターが多数出演している。

今年9月に公開された台湾時代劇映画の大作「Seediq Bale(セデック・バレ)」(魏徳聖監督)の総括プロデューサー黄志明氏に聞いた。

同氏は、台湾の東海大学で外国文学を専攻後、映画雑誌の編集者を経験。その後、映画制作を志し、台湾のスタジオ及び映画制作を行っている大手の中央電影(Central Motion Picture Co.)に入り、日本のチェックやコメントをつけるなどオーナーに提案する仕事を行った。その後、台湾の映画監督・蔡明亮氏の下で制作アシスタントを行い、映画制作の基本を学んだ。制作関係は約20年のキャリアがある。



プロデューサー黄志明氏

Q:今回、黄プロデューサーは、台湾で2008年「海角7号 君想う国境の南」で監督デビューした魏徳聖監督の最新作「Seediq Bale」をプロデュースしたが、この作品を制作しようとした意図、ねらいは何か?

黄志明氏:魏徳聖監督とは12年ほど前に知り合い、監督はその頃から「Seediq Bale」をぜひ監督してみたいと言っていた。当時2000年にアメリカのSony Picturesより「Double Vision(2つの目)」という作品を制作するチャンスがあり、制作の間に、魏監督から「Seediq Bale」のラフストーリーを見せてもらったり、何度かリライクしたものを見せてもらい、彼のこの作品への情熱に次第に惹かれ

ていった。

物語は、1930年、日本が台湾の植民地にしていったところに、台湾中部の山奥の霧社という場所で、日本警察に対する不満から、原住民のタイヤル族が中心となり日本人多数を惨殺した事件が元になっている。この事件は伝統的なものと文明の衝突ととらえられる。台湾の山岳に長年住んでいるタイヤル族が文化の進んだ日本人に対して戦いを挑んだという事件であり、戦後台湾国民党が宣伝したような「日本の支配に対する抗日抗日の活動」ではない。政治的な意図はなかった事件だ。この事件の本当の姿、真実を伝えようと思った。



「ピピアン・スー」が逃げる場面

Q:今回の制作総予算はどのくらいで、撮影期間などはどのくらいか?ロケセットは相当大規模だったと聞くがどの程度か?

黄志明氏:この作品の制作総予算は7億円(約20億円)で台湾映画史上初めてとなる大作だ。

6か月のプリプロを経て、撮影は2009年10月末から2010年9月上旬までの10か月と1週間。ロケ地は台北の桃園空港のそばに林口という丘陵があり、そこに当時の霧社の村をそのままセットで作った。実際は、他に2か所セットを作ったので合計3つのセットができた。美術監督は日本の種田陽平氏を招いて当時の村の様子、学校、交番などを詳細に時代検証した。セット制作には8000万円(約2.2億円)かけた。台湾は雨が多く大雨や台

風でセットが流されたこともあったが、その都度作り直した。撮影後、林口のロケ地は映画村にするよういま準備中と聞く。

Q:この作品の投資は何社くらいか?

黄志明氏:合計3社。一番大きいのは中央電影(Central Motion Picture Corp)で、47%、次は監督の魏徳聖氏で20%、残り30%ほどは台湾のベンチャーキャピタルの投資だ。魏監督は前作の2008年「海角7号」で台湾映画史上最高のBox Office(興行収入)を上げ、大きな利益をあげたので、それを投資したという。なかなか投資が決まらなかったが、中央電影が若手経営者により買収されたため、投資が急に決まった。同社は今後、積極的に映画に投資していくという。

Q:主演の俳優などについて教えてください。

黄志明氏:台湾では14の原住民(台湾政府公認の原住民のみ)がおり、この映画はタイヤル族と日本警察との争いを描いており、本島のタイヤル族から主演のモーナル・ダオを選ばねばならず、これが難題だった。オーディションを実施したところ、大柄な遺体があった。

彼は中年の太ったキリスト教の牧師で、タイヤル族。彼を選んだ。

3か月厳しいトレーニングをして痩せさせた。その後、タイヤル語の訓練をしながら、武術を9か月かけてマスターしてもらった。日本人役も重要であり、善良な警察官は安藤政信氏、悪徳警察官には木村祐一氏を起用した。

Q:撮影はすべて35mmフィルムで行ったというが、どのくらい回したのか。



35mm撮影にこだわった理由はなぜか。合成も多いのか。

黄志明氏:合計75万フィートを回した。合成カットは合計1,600カットと多い。フィルム撮影にこだわったのは、山地のロケが多く、機材トラブルを避けたかったため、シンプルなフィルムカメラにした。また、自然の美を再現するにはフィルムが適切と思った。カメラマンはチン・ディン・チャンという台湾カメラマン、CG制作は北京の北京水晶石公司で、ここはレッドクリフや剣雨などの実績がある。音楽はシンガポールのRicky Ho氏で、音入れはオーストラリアとシンガポールで行った。特筆すべきは、撮影後OKカットはネガからスキャンしてDI(デジタル化)作業を行った。普通はコストがかかるので台湾ではDI作業はやらないが、今回は中央電影という映画スタジオが投資しており、Qualityにこだわった面もある。完成作品は、Part1とPart2に分かれ、合計4時間20分の作品になった。公開は9月9日にPart1、9月末にPart2とした。台湾全土で100館ほどで公開する。これまで台湾の洋画ではアバターが最高の配収で、120館で公開されたので、同程度の規模のロードショー公開だ。

Q:BoxOffice(興行収入)はどのくらい期待しているのか。

黄志明氏:これまでの台湾映画の配収のトップは2008年の「海角7号」の5.3億円(約15億円)なので、この作品2部の合計で10億円(28億円)以上を期待している。これまでの台湾映画、外国映画を合わせてトップはアバター、2位がタイタニック、3位が海角7号なので、何とか3位には入りたいと思う。台湾映画の興行収入は、2008年以前は全興行収入の1%以下だったが、「海角7号」以降台湾映画に急速に人気が高まり、台湾文化が見直されている。今では興行収入の20~25%までを台湾映画が占めるようになってきている。

Q:今後の制作予定は?

黄志明氏:次回作は、2011年7月7日に撮影開始のラブ・ストーリーだ。監督は昨年旧正月のヒット作「モンガに散る」を撮ったニューチェンシェーで、俳優は台湾・香港・中国の豪華メンバーだ。メインの出資会社は中国の華誼兄弟という会社。これも相当話題を呼ぶと思う。

【霧社事件とは】

霧社事件とは、1930年(昭和5年)10月、台湾中部の高地1,000mにある霧社(地名)で、日本警察に対する



原住民の抗日記念像(霧社にて)

不満に端を発し、タイヤル族が中心となり、日本人多数を惨殺した事件。10月27日、霧社公学校において小学校の連合運動会が開かれるので、日本人生徒とその父兄が参集したところ、日章旗掲揚を合図として、約300名のタイヤル族の男たちが会場になだれ込み、そこにいた日本人を女性や幼児に至るまで、そのほとんどを殺害した後、警察駐在所や郡役所の霧社分室、さらに職員宿舎などを襲撃した。この日の襲撃で日本人134名が殺害され、215名が負傷した。ほとんどの日本人の死体は首をはねられていたという。

事件の鎮圧にあたった台湾総督府は、警官1,163名、軍隊800余名、漢族系台湾人青年団など1,563名、総計3,500余名を出動させた。事件は付近の山地に波及したので、日本側は砲兵隊や飛行機まで出動させ威嚇した。しかし、鎮圧するのに50数日を要した。多くのタイヤル族は捕らえられるよりも、自らの手で死を選んだ。自死の方法は銃死(首をくっつけて死ぬ)であった。深山の巨木には多い場合には10数名が1本の木で自殺していたという。

霧社に居住する山地先住民の12の部落の内、6部落・総人口1,399人の人々が蜂起もしくは蜂起に協力した。そのうちの276人が鎮圧の過程で死んだと伝えられる。

中華民國建国百周年記念 台湾感動100

紀行文2011 受賞作品

大賞(台北駐日経済文化代表処賞)

「無題」内野 美由紀

「そろそろ台湾に帰ろうかあ。」これが最近の母、妹との合言葉です。初めて台湾を訪れた日から、台湾の方々を尊敬し、好きでたまらなくなりました。

道でバスを待っていても、食事をしようとお店に行っても、屋台でお買いものをしている時も、多くの人が温かい手を伸ばしてください。

この前は4月に母と妹との3人できました。今回の目的は礁溪温泉と鶯歌と三溪老街でしたが、たくさんの幸せな出来事に出会いました。

鶯歌でとても素敵な陶器を買い、好きな飛魚香腸食べて、鶯歌の國慶街からバスに乗りました。15人乗り程度の小さなバスです。Easy cardは使えないと言われながら、バスは出発しました。走っているバスの中で、「請到三溪老街三個人」と伝えました。「78元」と言われて財布の中を見ましたが、全然小銭が

ありません!バスに乗る前に飛魚香腸を買った時に使ってしまったので、

100元札を出すと、運転手さんが運賃箱を手でふさいでダメだと言います。「お釣りはありません」という言葉を私は勉強していませんでした。バスの後ろに座っている母と妹に、78元あるかと大声で聞きました。2人とも「20元しかない!」と答えたので、もう1度100元札で払おうとして再び断られた時、振り返って驚きました。座っているお客さん全員が財布を取り出して、両替できるかみしてくれているのです。一人ひとりに聞きましたが、誰も100元分の小銭をお持ちではありませんでした。迷惑をかけているのは私なのに、皆さんは「ごめん」みたいなゼスチャーをしてくださいました。困って途方にふていたところ、若い男性が席をたつたので、降りるの

かと運転手さんの横から離れました。彼は運転手さんと話してお金を払い、私に「OK」と言いました。そうです、私たちのバスの運賃を払ってくれたのです。私は「謝謝」と100元札を渡そうとしましたが、「不要、不要」と絶対に受け取ってくれません。私達は何度も心から「謝謝」とお礼を言いました。彼がバスから降りる時にもう1度私たちは「謝謝!!」と叫びました。彼はいいよと言うような笑顔を私達に向けてくれました。二度と会うこともない外国人に、こんなに親切にしてくださるなんて!必ずもう一度三溪に行つて彼を見つけてお礼を言いたいです。

台湾の方々が私達にしてくださるように、私も多くの人に親切にすると決心しました。台湾は日頃忘れがちな【温かさ】を思い出させてくれる、大切に大好きな国です。

優秀賞(台湾観光協会賞)

「淡水の夕陽に捧げる日台友好への祈り」佐野 裕太

淡い寂寥の思いを噛みしめながら淡水河の畔に佇むと、暮れなずむ亜熱帯の街に喧騒のひと時が訪れる。淡水は台北中心部から地下鉄を利用して四十分ほどのところにある小さな港町であり、台湾屈指の夕陽スポットでもある。漁人碼頭は多くのカップルや家族連れで賑わいを見せ、黄昏時が麗わしの島の魅力をこれ以上ないまでに輝かせている。一人旅の私にはいささか怪しく感じられる瞬間でもある。

淡水駅へ戻る道すがら、紅毛城を通りすぎ、淡水教堂に差し掛かった頃であったであろうか。一人の老婆が財布の中の硬貨を全て地面にこぼしてしまったのを見かけたのである。中国語も台湾語も話せない私は「May I help you?」と英語で話しかけた。老婆は英語を解さないようであったが、散らばってしまった硬貨を一枚一枚拾っている私の姿を見て「謝謝」と言ってくれた。私は彼女の顔を見ながらにっこりと微笑んだ。

こぼれてしまったお金が全て無事彼女の財布の中に戻ると、私は「再見」と言ってその場を立ち去ろうとした。すると、老婆は、日本語で「ありがとうございました。助かりました」と述べたのである。驚きを隠せなかった私に対し、「十五歳

の頃まで日本語で勉強していました」と続けた。偶然出会った日本の若者と台湾の老人は、淡水河の水面を眺めつつ語り合った。昔の日本と台湾のこと、今の日本と台湾のこと。彼女が笑いながら語った、かつて日本人の教師に憧れの感情を抱いていたという話は、私に「海角七号」に登場した友子を彷彿とさせた。そして、「日本と台湾はいつまでも仲良くして欲しい」という老婆の言葉が何よりも深く私の心に響いた。

老婆と別れた私は、台北に戻る地下鉄の車内で、一世紀を越える日本と台湾の歴史について様々な思いを巡らせた。あの老婆は歴史の光と闇に翻弄されながらも、日本の良いところと悪いところを全て知った上で、日台友好を心の底から願っておられた。

日台間の友好に大きな役割を果たしてきた台湾日本語世代が年々減少してゆく状況の中、彼らが築いてきた友誼の絆を継承し日台友好の責務を担ってゆくべきは、これからの社会を担う私たち日本と台湾の若者である。古より台湾人の悲哀を慰めてきた淡水の夕陽が今日も明日も変わることなく美しいように、日本と台湾の友好関係がいつまでも変わら

特別賞(チャイナエアライン賞)

「墾丁夜市」大葉 二良

高雄の南に墾丁国家公園がある。全域が熱帯気候に属しているこの広大な公園は、南国ならではの自然が大層魅力的で、台湾へ行ったらぜひ一度は訪れたい場所だ。

この公園を観光し、墾丁海岸に面した夏都沙灘酒店に私と妻は宿泊した。久しぶりの二人だけの旅行だ。このホテルから墾丁大街と呼ばれる繁華街が始まっている。ここは墾丁夜市とも呼ばれてレストラン、屋台、土産物屋などが立ちならび、南国のエキゾチックな、リゾート地の雰囲気を感じることができる。

私と妻は夕食後、この通りをそぞろ歩いた。早速見つけたスイーツの屋台で私は大好きな愛玉子、妻は豆腐花を求めた。この辺りは大ヒットした台湾映画「海角七号」の舞台になったところだ。終戦直後の日本人男性と台湾の美しい少

女との悲恋を、現代と交差させた作品である。私は昔の自分のことを思い出した。

当時、私は二十代の終り。出張で初めての台湾にやって来た。好奇心の旺盛な頃で、台北での仕事が一段落すると、週末を利用して飛行機で高雄まで足を伸ばした。市内を見物し、夜、「大千世界」という名の劇場で歌謡ショーを見た。「雨夜花」や「何日君再来」といった哀調を帯びた美しい曲に加え、当時のポピュラーな歌を存分に聞くことができた。中に一人、素晴らしく上手な歌手がいた。聞き惚れていると、たまたま隣の席に座っていた女性が、その歌手の名は鄧麗君というのだと教えてくれた。

鄧麗君という名も記憶に残ったが、隣の若くて美しい女性の方がもっと素晴らしい。公演の後で夕食に誘うと、恥

ずかしそうにしながらも承諾してくれた。愛河のほとりの海鮮料理の店に案内してくれたその女性は、陳淑華という名前だった。

それから四十年近くが経った。その間、台湾へは何十回となくやって来て、そのたびに台湾の優しさに触れ、第二の故郷ともなった。いまま、南国の優しい風に吹かれている。

墾丁夜市の路地から、テレサ・テンの歌が流れて来た。

「ああ、この歌は、昔、一緒に聞いた歌だね」

私は妻の淑華に言う。「覚えてるわ」と彼女も頷いた。

海岸への道は賑やかだった。私たちはもう若くはないが、昔と同じように腕を組んで、ゆっくりと夜市を見て歩いた。

佳作 「心やさしき平溪線の旅」茂清 順司

間違えて瑞芳駅で電車を降りてしまった。目的地は平溪線の終点、菁桐だ。小さな路線図の載ったパンフレットだけを頼りに、何の下調べもせず台北駅から電車に飛び乗ったので、小さなローカル線への乗り換え駅を確認していなかった。

その日は十月も末だというのに真夏のように陽射しがきつかった。出発前、中山北路二段の路地を入った所で見つけた「こころ」というカフェで朝食を摂った。準備中にもかかわらず店内に案内してくれたお嬢さんは日本に留学経験があり、上手な日本語を喋ってくれた。僕が鉄道マニアで、若い頃は九州中の急行列車に乗りまくっていた事を話すと、彼女は店の奥に入って何やらごそごそ探していたが、手に台鉄のマークを押し出した特製の缶を「これどうぞ」と渡した。開けば彼女の父親は台鉄で働いているとの事だった。

瑞芳を出た電車は今度は侯岡駅で乗り換え。いよいよここからローカル列車の静かな旅が始まるぞ、と胸躍らせたのも束の間、高校生十人くらいが同じ車両にどやどやと乗り込んで来た。通路を挟んで両側で向いの席と話をするから、騒々しい事この上ない。挙句の果てに通路にカードを並べてゲームを始めた。沿線の溪谷美などにはまるで

関心がないようだ。ところが途中、十分駅だったろうか、四五人のハイキング帰りの年輩者が乗車してきたのを見るや、高校生は一斉に席を立ち、全員隣近く立ったまま子猫のように群をなして動かない。席は充分空いてしまったのに、立ったままで、口だけは相変わらず活発に運動している。

高校生連は僕達と一緒に菁桐で降りて、どこかへ消えて行った。鉄道マニアの僕は古い木造の駅舎を眺めたり、写真を撮ったり、名物の春巻きの惣菜を食べたりした。その後駅近くの線路沿いにあるコーヒー店で雨後珈琲や煤味珈琲を恐る恐る飲んだり、道か下に見える溪谷や、そこに架かる真っ赤な吊り橋を眺めて時を過ごした。

基隆で海鮮料理の夕食を、と帰路に着くと、あろう事かまたあの高校生連と同じ車両に乗り合わせた。彼らも「また逢いましたね」とも云うようにチラチラとこちらを気にしているが、中には軽くウィンクしてくる勇敢な少年もいる。「非情城市」の舞台九分ならぬ、夕暮れ迫る十分で降りて行った彼らの背中に、僕は声にならない声をかけた。「元気で優しい臺灣の若者よ、お蔭で今日はこれまでに最も素晴らしい鉄道旅行だったぜ」と。

佳作 「肌で感じた、台湾の優しさ」葉月 みか

3/11の東日本大震災。体験した事の無い大災害が日本を襲いました。

連日、被害の大きさを物語る映像が流れる中、目をひいたのが「台湾からの義援金総額が5月上旬には160億円を突破」というニュースでした。調べてみると台湾の人口は2300万人。2300万人で160億円!?よその国の為にも多くの人がこんなに思いを寄せてくれている。悲しい報道が続く中、本当にうれしかったです。台湾ってすごい!台湾をもっと知りたい!

それまで日本を出た事も無い私でしたが、すぐに仕事の有給休暇を取り、航空券を申し込み、出発直前の1ヶ月間に台湾語と北京語の勉強をし、台湾へと向かいました。

今回の旅では、取って観光地は回らずに、足ツボマッサージ、古い、写真館、台湾式シャンプー、夜市、等々、台湾の名物と呼ばれるものを体験し、そこで出逢えた方々に、「台湾からの義援金のニュースを聞いてとてもうれしかった。そして台湾の事を知りたいと思った。本当にありがとう。」とお礼を伝えさせていただきました。すると皆笑顔で「どうもありがとう」と逆にこちらにお礼を言ってく

れるのです。台湾の方は皆が本当に優しく、言葉が通じなくてもジェスチャーと筆談だけで時間が経つのも忘れるくらい話してくれたり、食べ物や台北のおすすめの場所を教えてください、おいしいお菓子をプレゼントしてくれたり、たくさんの温かい気持ちももらいました。

中でも印象に残っているのが、「台湾の人は日本に強く心を寄せているし、台湾で地震が起きた時に日本が助けてくれた事に今も感謝しています。ひとりひとりの力は小さくても、みんなが集まれば大きな力になる。台湾の人は少しでも協力出来ればと言う気持ちでみんな募金している。」と話してくれたこと。表情や話し方からも優しさが伝わって来て、本当に心から日本を思ってくれているんだと感動しました。

今回は短い時間しか台湾にいれませんでした。それでも、友好への思いを肌で感じる事が出来、より台湾を身近に感じられるようになりました。これからも言語の勉強を続け、台湾と交流を続けていきたいです。そして、いつかは自分が台湾と日本を繋ぐ架橋になれるような事が出来ればいいなと考えています。

特別賞(台湾物産館賞)

「あふれる笑顔in台湾」岡田 佳代子

「台湾感動紀行文」という課題で文章を書くことは非常に難しい。台湾では日常が感動の連続で、とても1000文字で書ききれものではない。さらに言えば、その一つ一つの感動が大きすぎて、とても言葉では表せない。今、こうして文字にしているこの時点でさえ、気持ちの方が高ぶり、文才のなさにストレスを感じるほどである。一番わかりやすく説明するとすれば、「一度行ってみたいよ。そして、二度、三度...。行くたびに感動が増すから。そして、他の国に行つてごらん。その感動に深み加わるよ。」という具合である。アジアの国々を訪れると、人々の熱気に圧倒される。日本にはない活気がある。それだけではなく、台湾には、日本同様に規律がある。列を作つて待つ。信号を守る。夜でも安心し

て外出できる。日本にいれば当たり前だが、日本以外の国でどれだけありがたいことか。その安心感が台湾には存在する。ふとした日常のひとコマではあるのだが、夜市観光のため、西門から地下鉄に乗り、士林夜市へ向かった時のこと。5、6人の高校生ぐらいの男の子たちがエレベータに乗りこんだとき、妊婦さんがやってきた。エレベータから一人の男の子が場所を譲るために降りると同時に、高齢の女性がやってきた。すると、一人降り、二人降り、最後にはどうぞとお願いしながら全員が降りて楽しそうにはしゃぎながら去って行った。夜市の屋台で頼んだ食べ物に前にして手間取っていると、隣のテーブルの若い男女のカップルが、こう食べるのですよと声をかけて来てくれた。恥ずかしがり屋が

多いのか、日本ではなかなかこのような若者の積極的な行いを目にする事がない。親切な行いがためらうことなく自然に出てくるのだ。街を歩くと何回もこのような若者の優しさに触れると、いつもは眉間にしわを寄せて見てしまいうような、地下通路での若者たちのダンスレッスンまでも「頑張ってるなあ」と微笑ましくなる。こちらまで優しい気持ちになれるのだ。心に疲れがたまっていた時こそ台湾へ向かうことをお勧めしたい。ガイドブックには載っていない、本当の癒し効果が得られるはず。やはり感動というものは言葉では伝え難い。百聞は一見にしかず。とにかく台湾へ。そうすれば知らず知らずのうちに笑顔で自分に気がつく。これがまさに私の台湾感動体験といえるかもしれない。

中華民國建国百周年記念 台湾感動100 写真大賞2011

写真大賞2011
受賞作品



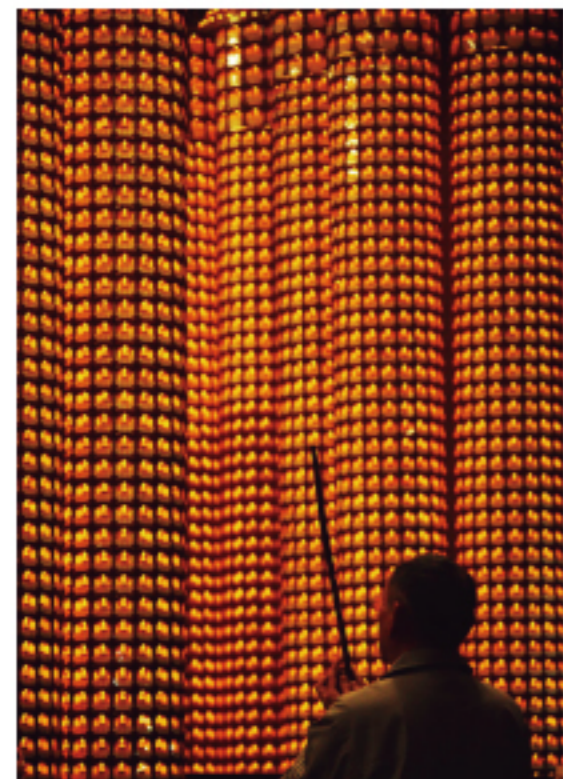
大賞(台北駐日経済文化代表処賞)
「無題」 大野 雅生



優秀賞(台湾観光協会賞)
「農の旅 さわやか緑 水旨まし」 福村 晃司



特別賞(台湾好き!賞)
「おとぎの国」 土屋 展



特別賞(エバー航空賞)
「無題」 大野 雅生



佳作「ジャンプ」 岩崎 優



佳作「宝島溪谷」 竹崎 俊茂



佳作「明鏡止水」 飯島 一隆



佳作「知られざる美人菓の名産地」
福村 晃司



佳作「燦爛之光迎新年」
竹崎 俊茂



佳作「無題」 高田 浩子



佳作「みんなで乾杯」 岩崎 優



佳作「八咫團出陣」 並谷 智弘

中華民國建国百年
歡度國慶祝賀祭典

100
1911~2011

獅子舞・台湾民族舞踊・雜技・台湾から歌手とドエロ劇団を招き、盛りだくさんの楽しい催し物のほか、至福の台湾ご当地グルメも堪能!

祥獅獻瑞・民族舞踊・雑技外、特邀台湾歌手楊蕙妮以及小丑劇團赴日表演。精采節目加上各僑團所提供的台灣家鄉美食，盼您蒞臨共襄盛舉。

1000円食券につき一枚の抽選券、東京/台北往復航空券など豪華懸賞が満載
毎千円日常消費券付一張摸彩券提供抽獎、合七張東京台北來回機票等豪華獎品

イベント時間: 10月2日(日) AM9:00より入場 先着500名にもれなく台湾特産進呈

イベント会場: 東京中華学校 東京都千代田区五番町14番地 <http://tcs.or.jp>
四ッ谷駅: JR中央線、地下鉄南北線・丸の内線から徒歩五分
市ヶ谷駅: JR総武線、地下鉄有楽町線・南北線・都営新宿線から徒歩五分
主催: 中華民國留日東京華僑總會・中華民國留日東京同學會
後援: 台北駐日經濟文化代表處・台北駐日經濟文化代表處橫濱分處
協賛: 日本中華聯合總會・中華民國留日台灣同鄉會・在日台灣商工會議所



中華民國(台湾) 建国百周年記念特別展
孫文と日本の友人たち

2011年10月3日(月)→10月8日(土)
ブリーゼブリーゼ5階特設会場

〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9
<http://www.breeze-breeze.jp>

| 開催時間 11:00 ~ 23:00

| 入場料 無料

| 主催 台北駐大阪經濟文化弁事處
中華民國留日大阪中華總會

| 協力 産経新聞社

